

授業科目名	尾道学入門		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード	01	担当教員名	世永 逸彦		担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>本講義は、尾道市立大学に入学してきた学生が、尾道という地域の文化や課題に関わるさまざまなテーマを通して、出身地およびその他の地域の問題に関心を持ち、自分なりの考えを持つことができるようになることが主な目的である。講義では、毎回の授業内容を理解し、それをふまえた上で、毎回出されるそれぞれの課題に対して適切な回答ができることが求められる。</p>								
【授業の概要】								
<p>学生時代を過ごす「尾道」を切り口として、尾道の歴史や文化、また尾道に関する経済・経営・情報学、文学、美術等それぞれの分野に関するテーマを設定し、毎回異なった講師によるオムニバス形式で講義を行う。また、尾道において、現在問題となっている地域の課題に関する内容も含め、多方面から学問的なアプローチを試みることによって、尾道独自の地域性に対する理解を深める。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 尾道学とは何か？－尾道の人物を主人公とした文学－拳骨和尚（藤沢毅）  第2回 尾道の地域活性化と来訪者の力－江戸時代の行商人・芸能者・医療関係者から－（森本幾子）  第3回 ここ、尾道市立大学の周辺－久山田をめぐる伝承文化－（藤井佐美）  第4回 和作先生の思い出（村上選）  第5回 地域の物語を書く（光原百合）  第6回 求道の画家 平山郁夫（幸野昌賢）  第7回 志賀直哉の尾道時代（寺杉雅人）  第8回 海事都市尾道と海事法の整備状況（王佳子）  第9回 負の地域資源と美術活動（小野環）  第10回 船とバスで尾道近郊を巡ろう－1筆書きの数理－（南郷毅）  第11回 尾道空き家再生プロジェクト（豊田雅子）  第12回 都市尾道の歴史的環境とまちづくり（真野洋介）  第13回 暮らしをつくる・人とつながる・まちを変える－  尾道とライブツィヒに学ぶ（空き家・空き地）をベースとしたまちづくり（大谷悠）  第14回 尾道の地域包括ケア－尾道市医師会方式の成立と展開－（佐藤沙織）  第15回 地域学の発掘－「尾道学」構築と実践のあらまし－（林良司）</p>								
テキスト	各講義時に配布する。							
参考書・参考資料等	授業によっては、講義時に適宜紹介する。							
学生に対する評価	毎回、講師が講義内容に沿った課題を出し、それに対して適切な回答をレポート形式で提出してもらおう。もし、講義内容と無関係であったり、講師の指定した課題に沿っていない内容の場合は、レポートとして認めないこととする。							
備 考	<p>受講前に、シラバスの内容をよく読むこと。尾道の地域性について学び、講師の課題に対して適切なまとめができ、また、講義内容をふまえた上で、自分なりの考えを述べることが重要である。</p> <p>科目コード：G-地-1-01-L</p>							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家等による授業					

授業科目名	地域の伝統文化(囲碁)		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	山本 賢太郎		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>(1) 囲碁のルールを習得し19路盤で対局できるようになること  (2) 囲碁の世界、歴史全般及び囲碁と尾道市との歴史的関係を知ること  2項を柱に、日本の伝統文化である囲碁を体験し、教養として身につけることにある。</p>								
【授業の概要】								
<p>江戸時代の囲碁の巨人「本因坊秀策」が因島生まれであることに由来し、囲碁は尾道市の市技である。  本講義では、この日本の伝統文化を身につけ、囲碁の持つ力※を修得することはもちろんのこと、尾道のより一層の理解に役立てる。  (※ 囲碁の持つ力とは…(1)大局観を養える、(2)答えのない局面で考える力を身につけられる、(3)論理的な思考・集中力・認識力を養える、(4)日本の伝統文化を学び、国際交流のコミュニケーション力を身につけられる、(5)負ける経験をして、克服する力を鍛えられる、(6)能動的に考えることに慣れる)</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 ガイダンス  第2回 ルールの解説  第3回 ルールの復習  第4回 終局の説明  第5回 対局の流れと初歩技術の解説  第6回 授業内テスト(1)  第7回 模範碁の解説と対局(1)(19路盤での終局の判断と、整地の仕方)  第8回 模範碁の解説と対局(2)(19路模範碁の解説と、実践対局)  第9回 囲碁の世界(映写資料を使用予定)  第10回 模範碁の解説と対局(3)(19路模範碁の解説と、実践対局)  第11回 9子局の解説と連碁  第12回 模範碁の解説と対局(4)(ペア碁)  第13回 授業内テスト(2)  第14回 模範碁の解説と対局(5)(19路模範碁の解説と、実践対局)  第15回 代表者対局 まとめ</p>								
テキスト	東大教養囲碁講座(光文社新書)2007年発行、著者:石倉昇、梅沢由香里、黒瀧正憲、兵頭俊夫							
参考書・参考資料等	実践囲碁総合演習(日本棋院)2014年発行							
学生に対する評価	授業態度、実技の習得度で総合的に評価する。							
備 考	予習としてテキストの該当事項を読んでおくこと。 科目コード: G-地-1-02-L							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		現役棋士による囲碁の力を身につける授業				

授業科目名	文化財学			履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	藤井 佐美			担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】									
文化財の種々相について学び、文化財の現在とその意義について理解を深め、社会に活用していくこと、また次世代にその意義を伝えられる力をつけることを目標としています。									
【授業の概要】									
文化財は、伝統的建造物群、文化的景観と現に人の生活や生業が行われている地域が対象になる等、その対象が広がってきています。この授業では、文化財の現状や社会とのかかわりについて論じていきます。またフィールドワークを通じて地域の文化財にも目を向け、実地においてより具体的に文化財とは何かを学びます。									
【授業計画】									
講 義 内 容									
<p>第 1回 文化財学入門(浅利)</p> <p>第 2回 文化財保護の歴史(浅利)</p> <p>第 3回 文化財の保存(浅利)</p> <p>第 4回 文化財の活用(浅利)</p> <p>第 5回 文化財を活かしたまちづくり(浅利)</p> <p>第 6回 日本における世界遺産(浅利)</p> <p>第 7回 文化財をとりまく諸問題(浅利)</p> <p>第 8回 尾道市の日本遺産(1)(西井)</p> <p>第 9回 尾道市の日本遺産(2)(西井)</p> <p>第10回 尾道の絵画Ⅰ(中世～近世)(宇根元)</p> <p>第11回 尾道の絵画Ⅱ(近代～現代)(宇根元)</p> <p>第12回～第15回 フィールドワーク</p> <p>「尾道旧市街地探訪-中世～近世～近代の町の移り変わりをみる」(西井)</p> <p>尾道遺跡である尾道旧市街地を歩き、町の移り変わりや様々な歴史遺産をみて、現在の課題などを把握する。</p> <p>「文化財関連施設を巡る」(宇根元)</p> <p>尾道旧市街地にあるおのみち歴史博物館、爽籟軒庭園など尾道市重要文化財を観覧し、文化財の活用について現地研修する。</p> <p>【フィールドワークは、2020年12月、または2021年1月の土曜日または日曜日(1日、終日)に実施予定。詳細は2020年の11月中旬に掲示します】</p> <p>オムニバスの責任者名: 藤井 佐美</p>									
テキスト	プリントを配布する。								
参考書・参考資料等	授業のなかで適宜提示する。								
学生に対する評価	授業・小課題への取り組み(20%)、レポート(80%)								
備 考	レポート指示は、しっかりと把握し、期限を守り決められた提出先へ提出のこと。 科目コード: G-人-1-31-L								
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容			学外での実習、フィールドワーク等を伴う授業				

授業科目名	美術表現入門		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	吉原 慎介		担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
美術表現のみならず、広い意味での「表現」を主体的かつ意識的に捉えられるようになることを目標とします。								
【授業の概要】								
講義・実習などを通して多様な美術表現に触れてもらいながら、さまざまな手法によって「表現」を捉える試みを行います。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 ガイダンス(美術学科教員)</p> <p>第2回 日本絵画 鑑賞の楽しみ(市川)</p> <p>第3回 古来からの「色」についての話(吉原)</p> <p>第4回 〈光といる〉-絵画や身近なものをとおして考える-(矢野)</p> <p>第5回 日本のイラストレーション史(野崎)</p> <p>第6回 箔、砂子の話(鈴木)</p> <p>第7回 ビートルズのデザイン(世永)</p> <p>第8回 映像は万能か?(黒田)</p> <p>第9回 グラフィックデザイン史(伊藤)</p> <p>第10回 眼を 観て 描く(小野)</p> <p>第11回 尾道をモチーフとした絵画作品をスライドを使って鑑賞(中村)</p> <p>第12回 彫刻の素材と技法及び尾道の街中の彫刻について(桜田)</p> <p>第13回 工芸とデザイン(林)</p> <p>第14回 グローバル・アート・シーンの可能性(稲川)</p> <p>第15回 水彩を知る(橋野)</p>								
テキスト	なし							
参考書・参考資料等	必要があるときに講義中に紹介します。							
学生に対する評価	出席・授業への積極的な参加(60%)、課題への真摯な取り組み(40%)を基準として、総合的に評価します。							
備 考	<p>普段の生活において、身の回りにあるさまざまな物事を意識的に観察してみてください。</p> <p>科目コード: G-人-1-21-L</p>							
担当教員の業務経験の有無	○	業務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業					

授業科目名	社会保障入門		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	佐藤 沙織		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目		社会保障 社会政策			
【授業の到達目標及びテーマ】								
[テーマ] 日本の社会保障制度の概要を理解する								
[到達目標] 1. 日本の社会保障制度について基礎的な知識を習得すること 2. 日本の社会保障制度の課題を把握し、議論できるようになること								
【授業の概要】								
<p>どのような人であっても病気や怪我、失業、それらに伴う貧困といった問題に直面する可能性があります。そうした問題に直面したときに人々が利用しうる制度として国や地方自治体が設けているものが社会保障制度です。社会保障制度は、誰を対象にどこまで保障するか、誰が費用を負担するか、誰によって提供されているかなどについて、非常に複雑なものとなっています。複雑であるからこそ、いざ問題に直面したときに制度にアクセスしたり利用したりできずに生活基盤が崩落してしまう人もいます。ゆえに社会保障制度についての基礎的な理解はとて大切でです。</p> <p>この授業では各回を通して、日本の社会保障制度の特徴や課題について基礎的な理解を深めていきます。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第1回 イン트로ダクション								
第2回 社会保障の歴史								
第3回 社会保障制度の体系:公的扶助・社会福祉・社会保険								
第4回 公的扶助:生活保護制度とは何か・ホームレスになるとはどういうことか								
第5回 社会福祉(1)児童福祉:子どもの貧困とこども食堂								
第6回 社会福祉(2)児童福祉:「コウノドリ」から考える社会的養護								
第7回 社会福祉(3)障害者福祉:障害とは何か、障害者の教育と雇用								
第8回 社会福祉(4)高齢者福祉:高齢者のケアは誰がどこでどのようにしてきたのか								
第9回 社会保険(1)労働保険:労働保険と雇用保険								
第10回 社会保険(2)医療保険:日本の病院制度と「社会的入院」問題								
第11回 社会保険(3)介護保険:介護保険制度の成立背景								
第12回 社会保険(4)公的年金制度:年金セミナー								
第13回 社会保険(5)公的年金制度:高齢者の抱える経済的課題								
第14回 社会保障制度の変容:地域包括ケアから地域共生社会へ								
第15回 授業のまとめ								
テキスト	テキストは特に指定しません。							
参考書・参考資料等	<p>以下の文献のほか、必要に応じて授業で紹介していきます。</p> <p>加藤智章・菊池馨実・倉田聡、前田雅子(2017)『社会保障法』有斐閣  岩村正彦・菊池馨実・嵩さやか・笠木映里(2013)『目で見える社会保障法教材』有斐閣  岩田正美・武川正吾・永岡正己・平岡公一編(2003)『社会福祉の原理と思想』有斐閣  平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人(2011)『社会福祉学』有斐閣</p>							
学生に対する評価	授業への参加度(20%)、小テスト(30%)、期末試験(50%)により評価します。							
備 考								
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	日本年金機構の職員による実務経験を基にした講演を予定しています。					

授業科目名	思考とデザイン		履修年次		開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	黒田 教裕		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直観と分析の反復によって発想の精度を高めていくこと</li> <li>2. 着想における自らの視点を見いだしていくこと</li> <li>3. 多角的な視点を獲得すること</li> </ol>								
【授業の概要】								
<p>この授業は、5つの概念的なテーマにもとづく対談や講義を通してアイデアを発想し、そのアイデアとテーマとの関係から次のアイデアを発想する、ということを通して進めていきます。この過程を通して、物事に対する自身の視点(まなざし)を発見し構築していくことを授業の目的とします。</p> <p>全15回の授業は3回×5セットで進めていきます。各セットはゲストスピーカーとの対談形式、講義形式、学生発表の3回で構成し、セット内は共通したテーマで行います。また、各回の授業時間のうち、前半をテーマに沿った内容の講義、後半を受講生のひとことカードを用いた応答の時間として用います。学生発表では3名ほどの学生グループによるディスカッションを行い、その結果を教員から問いかけていきます。</p> <p>発想と思考をトレーニングしていく授業形態になりますので、授業への積極的な参加を望みます。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1～3回: テーマ「観察」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見るとは何か、本当に見えているのか、日常の観察から考えていきます。</li> </ul> <p>第1回: オリエンテーション・講義、第2回: ゲストスピーカーとの対談、第3回: 学生発表</p> <p>第4～6回: テーマ「空間」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなときに空間を感じるのか、空間とはどのような性質を持つのか考えていきます。</li> </ul> <p>第4回: ゲストスピーカーとの対談、第5回: 講義、第6回: 学生発表</p> <p>第7～9回: テーマ「時間」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間とは何か、時間は存在するのかということを考えていきます。</li> </ul> <p>第7回: ゲストスピーカーとの対談、第8回: 講義、第9回: 学生発表</p> <p>第10～12回: テーマ「反復」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反復していくこととはどういうことか、なぜ反復するのかといったことを考えていきます。</li> </ul> <p>第10回: ゲストスピーカーとの対談、第11回: 講義、第12回: 学生発表</p> <p>第13～15回: テーマ「余白」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・余白にはどのような役目があるのか、余白の意味を考えていきます。</li> </ul> <p>第13回: ゲストスピーカーとの対談、第14回: 講義、第15回: 学生発表</p> <p>※それぞれのテーマの内容は変更する場合があります。</p>								
テキスト	なし							
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介します。							
学生に対する評価	授業内課題(アイデアシート作成) 全15回: 40% 期末レポート: 60%							
備 考	定員70名。希望者多数の場合、抽選を行います。履修希望者は初回のオリエンテーションに必ず出席してください。都合により、各セットの順序やテーマ内容を変更する場合があります。身の回りの物事と自分との関わりを、日頃から考えてみてください。特に、授業内で扱うテーマとの関係性に注目していくと良いでしょう。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的な内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業					

授業科目名	建築環境論		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	渡邊 義孝		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>日ごろ意識していない住まいや環境、まちなみに目を向け、生活やアートの根本にある建築空間への理解を深める。そして持続可能な社会、環境共生の具体的手法について、自分の意見を持ち実践できる主体となることを目標とする。</p>								
【授業の概要】								
<p>主に住宅建築の計画と生活空間としての都市景観、建築や町を媒体とした環境共生のあり方について学ぶ。          教室での学習の他に、空き家再生に取り組むNPO等と連携しながら、尾道のまちなみや再生民家を巡るフィールドワークを取り入れ、斜面地の特異なまちなみの歴史と構成を理解し、歴史的建造物を維持、活用する方法と理論を学ぶ。          スクラップアンドビルドではない持続的な住まい観を、日本の伝統的な民家の姿に求めながら、実際に講師が関わった住宅再生の現場と、ユーラシアをはじめとした異文化圏での調査を元にして、展開する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 尾道の都市景観          第 2回 近代住宅建築の成立と変遷 ～洋館の誕生と尾道          第 3回 民家から何を学ぶか          第 4回 長江通りに見る街の形成史【まちあるきフィールドワーク1】          第 5回 アジアの住宅に見るエコロジー          第 6回 セルフビルド住宅 ～家をつくる自由          第 7回 斜面地に見る尾道の建築の多様性【まちあるきフィールドワーク2】          第 8回 健康と建築空間 ～シックハウス問題から見えるもの          第 9回 山手の住まいとかわるまち ～空き家再生・環境負荷と自然エネルギー          第10回 海と山に刻まれた歴史を辿る【まちあるきフィールドワーク3】          第11回 民家再生と耐震補強          第12回 環境共生と持続可能性          第13回 空き家はいかに再生されたか～ガウディハウスを見る【まちあるきフィールドワーク4】          第14回 温熱環境と光を学ぶ          第15回 人が生きるまちの再生へ～空き家再生と定住化をめざして</p>								
テキスト	なし							
参考書・参考資料等	蔵前仁一・矢津田義則・渡邊義孝『セルフビルド 家をつくる自由』(旅行人)							
学生に対する評価	試験成績(50)、毎回提出させる感想文(40)、授業への意欲・姿勢(10)							
備 考	授業後に、自身の関心に基づき書籍、ウェブなどで復習し理解を深めるとともに、自分の意見を持つように努力されたい。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業				

授業科目名	総合英語1	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	Dawn Kobayashi	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>1. 英語で様々な日常トピックスについて話すことができる。</p> <p>2. 英語で話せる力を身につける。</p>							
【授業の概要】							
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に付け、異文化理解を深める。							
【授業計画】							
講 義 内 容							
第 1回 - Orientation							
第 2回 - Topic 1: Friends and Family							
第 3回 - Topic 1: Friends and Family							
第 4回 - Topic 2: Hobbies and Interests							
第 5回 - Topic 2: Hobbies and Interests							
第 6回 - Topic 3: Food and Restaurants							
第 7回 - Topic 3: Food and Restaurants							
第 8回 - Topic 4: Music and Movies							
第 9回 - Topic 4: Music and Movies							
第 10回 - Topic 5: Money and Shopping							
第 11回 - Topic 5: Money and Shopping							
第 12回 - Topic 6: Travel Plans							
第 13回 - Topic 6: Travel Plans							
第 14回 - Speaking Task							
第 15回 - Review and Test Preparation							
テキスト	なし						
参考書・参考資料等	適宜授業中に紹介する。						
学生に対する評価	試験成績30%, 授業中プレゼンテーション40%, 課題30%						
備 考	授業内容をしっかり学習してください。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業				



授業科目名	総合英語1		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	Gavin Young		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>1. 英語で様々な日常トピックスについて話すことができる。</p> <p>2. 英語で話せる力を身につける。</p>								
【授業の概要】								
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第 1回 - Orientation								
第 2回 - Topic 1: Friends and Family								
第 3回 - Topic 1: Friends and Family								
第 4回 - Topic 2: Hobbies and Interests								
第 5回 - Topic 2: Hobbies and Interests								
第 6回 - Topic 3: Food and Restaurants								
第 7回 - Topic 3: Food and Restaurants								
第 8回 - Topic 4: Music and Movies								
第 9回 - Topic 4: Music and Movies								
第 10回 - Topic 5: Money and Shopping								
第 11回 - Topic 5: Money and Shopping								
第 12回 - Topic 6: Travel Plans								
第 13回 - Topic 6: Travel Plans								
第 14回 - Speaking Task								
第 15回 - Review and Test Preparation								
テキスト	なし							
参考書・参考資料等	適宜授業中に紹介する。							
学生に対する評価	試験成績30%, 授業中プレゼンテーション40%, 課題30%							
備 考	授業内容をしっかり学習してください。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業					

授業科目名	総合英語2		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	Dawn Kobayashi		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>1. 英語で様々な日常・トピックスについて話すことができる。</p> <p>2. 英語で話せる力を身につける。</p>								
【授業の概要】								
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に付け、異文化理解を深める。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第 1回 - Introduction								
第 2回 - Topic 7: Fashion and Appearances								
第 3回 -Topic 7: Fashion and Appearances								
第 4回 - Topic 8: Directions and Getting Around								
第 5回 - Topic 8: Directions and Getting Around								
第 6回 - Topic 9: Health and at the Doctors								
第 7回 - Topic 9: Health and at the Doctors								
第 8回 - Topic 10: Careers and Future Plans								
第 9回 - Topic 10: Careers and Future Plans								
第 10回 - Topic 11: Past Experiences								
第 11回 - Topic 11: Past Experiences								
第 12回 - Topic 12: Role Models								
第 13回 - Topic 12: Role Models								
第 14回 - Speaking Task								
第 15回 - Review and Test Preparation								
テキスト	なし							
参考書・参考資料等	適宜授業中に紹介する。							
学生に対する評価	試験成績30%, 授業中プレゼンテーション40%, 課題30%							
備 考	授業内容をしっかり学習してください。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業					

授業科目名	総合英語2		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	Gavin Young		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>1. 英語で様々な日常トピックスについて話すことができる。</p> <p>2. 英語で話せる力を身につける。</p>								
【授業の概要】								
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に付け、異文化理解を深める。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第 1回 - Orientation								
第 2回 - Topic 1: Friends and Family								
第 3回 - Topic 1: Friends and Family								
第 4回 - Topic 2: Hobbies and Interests								
第 5回 - Topic 2: Hobbies and Interests								
第 6回 - Topic 3: Food and Restaurants								
第 7回 - Topic 3: Food and Restaurants								
第 8回 - Topic 4: Music and Movies								
第 9回 - Topic 4: Music and Movies								
第 10回 - Topic 5: Money and Shopping								
第 11回 - Topic 5: Money and Shopping								
第 12回 - Topic 6: Travel Plans								
第 13回 - Topic 6: Travel Plans								
第 14回 - Speaking Task								
第 15回 - Review and Test Preparation								
テキスト	なし							
参考書・参考資料等	適宜授業中に紹介する。							
学生に対する評価	試験成績30%, 授業中プレゼンテーション40%, 課題30%							
備 考	授業内容をしっかり学習してください。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業					

授業科目名	中国語1	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	劉 英姿	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目	中国語2				
【授業の到達目標及びテーマ】							
中国語の基礎である発音と基本的な文法を中心に学び、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目指します。							
【授業の概要】							
中国語1により、(1)中国語の発音の基礎 (2)ローマ字による発音表記法 (3)簡単な日常会話 (4)基本的文法項目のうち、最も重要なものなどを習得することを目的とする。							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第 1回 中国語の学習について 声調・単母音・声調の変化</p> <p>第 2回 子音・複母音・鼻母音</p> <p>第 3回 ピンインのまとめ</p> <p>第 4回 知って便利な呼び方・挨拶</p> <p>第 5回 第1課 自己紹介 人称代名詞</p> <p>第 6回 第1課 練習&amp;リスニング</p> <p>第 7回 第2課 指示代名詞1と疑問詞</p> <p>第 8回 第2課 練習&amp;リスニング</p> <p>第 9回 中国映画の鑑賞</p> <p>第10回 第3課 指示代名詞2・動詞述語文</p> <p>第11回 第3課 練習&amp;リスニング</p> <p>第12回 第4課 数量詞とお金の単位</p> <p>第13回 第4課 練習&amp;リスニング</p> <p>第14回 第5課 場所指示代名詞・在／想</p> <p>第15回 第5課 練習&amp;リスニング</p>							
テキスト	<最新版>1年生のコミュニケーション中国語						
参考書・参考資料等	授業で紹介する						
学生に対する評価	試験成績(70)、小テスト、参加状況(30)						
備 考	テキストを予習・復習する。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業				

授業科目名	中国語2		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	劉 英姿		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	中国語1		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
中国語の基礎である発音と基礎的な文法を中心に学び、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目指します。								
【授業の概要】								
中国語1・2により、中国文化などを一層理解することを目的とする。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 第6課 中国の食文化 助数詞</p> <p>第 2回 第6課 練習&amp;リスニング</p> <p>第 3回 第7課 選択疑問詞・完了の表現など</p> <p>第 4回 第7課 練習&amp;リスニング</p> <p>第 5回 第8課 経験を表す「過」・時を表す語</p> <p>第 6回 第8課 練習&amp;リスニング</p> <p>第 7回 第9課 時間の長さ・二つの目的語を持つ動詞</p> <p>第 8回 第9課 練習&amp;リスニング</p> <p>第 9回 中国映画の鑑賞</p> <p>第10回 第10課 助動詞「可以」「能」「会」</p> <p>第11回 第10課 練習&amp;リスニング</p> <p>第12回 第11課 「給」の使い方 来/去+動詞など</p> <p>第13回 第11課 練習&amp;リスニング</p> <p>第14回 第12課 過去の行為「是～的・」～の時「～の時後」</p> <p>第15回 第12課 練習&amp;リスニング</p>								
テキスト	<最新版>1年生のコミュニケーション中国語							
参考書・参考資料等	授業で紹介する							
学生に対する評価	試験成績(70)、小テスト、参加状況(30)							
備 考	テキストを予習・復習する。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	ネイティブ教員による実践的な語学教育を伴う授業					

授業科目名	TOEIC1		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	池森 典子		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	総合英語1. 2		次に履修が望まれる科目		TOEIC 2			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>(1) 英語力向上のための語彙力と文法力の増強を図る。  (2) 英語を聞く力・読む力を総合的に伸ばす。  (3) TOEICの問題を解くためのストラテジーを習得する。  (4) TOEICのスコアアップを図る。</p>								
【授業の概要】								
<p>TOEIC新形式問題の演習を通して、国際的に通用する基礎的な英語運用能力を育成しながら、実践的な英語表現を学び、TOEICのスコアアップを図ることを目的とする。また本授業では、TOEICに頻出する語彙、文法問題の演習、聞き取りにくいリスニングの音変化をはじめ、TOEICのリーディング・リスニング問題を解く上で必要な攻略法を身につけることができるよう、包括的な実践演習をテキストのユニットに沿って行う。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 ガイダンス Unit 1: Restaurant / 人称代名詞  第2回 Unit 2: Entertainment / 不定代名詞と再帰代名詞  第3回 Unit 3: Business / 現在・過去の時制  第4回 Unit 4: Office / 現在完了  第5回 Unit 5: Telephone / 時・期間を表す前置詞  第6回 Unit 6: Letter &amp; E-mail / 位置・場所を表す前置詞  第7回 Unit 7: Health / 数量形容詞  第8回 まとめと中間試験  第9回 Unit 8: Bank &amp; Post Office / 自動詞と他動詞  第10回 Unit 9: New Products / 形容詞を作る接尾辞  第11回 Unit 10: Travel 1 / 副詞を作る接尾辞  第12回 Unit 11: Travel 2 / 分詞構文  第13回 Unit 12: Job Applications / 比較  第14回 Unit 13: Shopping / 受動態  第15回 Unit 14: Education / 関係代名詞</p>								
テキスト	『TOEIC LISTENING AND READING TEST への総合アプローチ』(吉塚 弘, Michael Schauerte 成美堂) 付属音声CD有							
参考書・参考資料等	TOEICテスト 新公式問題集 新形式問題対応編 (IIBC)							
学生に対する評価	1 課題・小テスト(20%) 2 中間試験 (30%) 3 期末試験 (40%) 4 平常点(授業への取り組み)(10%)							
備 考	各UNITのリーディング問題は必ず予習しておくこと。またテキストと連動したWeb英語学習システムLINGUA PORTA(リンガポルタ)などを活用し、しっかりと復習を行うこと。TOEIC-IPテストの受験を推奨します。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		語学を活かした職業経験のある教員による実践的な語学教育を伴う授業				

授業科目名	TOEIC2	履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	池森 典子	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目	TOEIC1	次に履修が望まれる科目	上級英語1				
【授業の到達目標及びテーマ】							
(1) 英語力向上のための語彙力と文法力の増強を図る。 (2) 英語を聞く力・読む力を総合的に伸ばす。 (3) TOEICの問題を解くためのストラテジーを習得する。 (4) TOEICのスコアアップを図る。							
【授業の概要】							
TOEIC 1 に引き続き、国際的に通用する基礎的かつ実践的なコミュニケーション能力を、TOEIC新形式問題の演習を通して育成する。よって本授業では、TOEIC 1 で習得した英語運用能力とTOEICのための攻略法をもとに、より発展した実践的演習を通してTOEICの更なるスコアアップを図ることを目的とする。							
【授業計画】							
講 義 内 容							
第 1 回 ガイダンス Unit 1 : Eating Out 文法:動詞(1) 第 2 回 Unit 2 : Travel 文法:動詞(2) 第 3 回 Unit 3 : Amusement 文法:品詞 第 4 回 Unit 4 : Meetings 文法:分詞 第 5 回 Unit 5 : Personnel 文法:不定詞と動名詞 (1) 第 6 回 Unit 6 : Shopping 文法:不定詞と動名詞 (2) 第 7 回 Unit 7 : Advertisement 文法:仮定法 第 8 回 まとめと中間試験 第 9 回 Unit 8 : Daily Life 文法:受動態 第10回 Unit 9 : Office Work 文法:代名詞 第11回 Unit 10 : Business 文法:数量詞 第12回 Unit 11 : Traffic 文法:接続詞 第13回 Unit 12 : Finance and Banking 文法:前置詞 第14回 Unit 13 : Media 文法:語彙 第15回 Unit 14 : Health and Welfare							
テキスト	『一歩上を目指すTOEIC Listening and Reading test : Level 3』(北尾 泰幸, 西田 晴美, 林 姿穂, Brian Covert 朝日出版社 )						
参考書・参考資料等	TOEICテスト 新公式問題集 新形式問題対応編 (IIBC)						
学生に対する評価	1 課題・小テスト(20%) 2 中間試験 (30%) 3 期末試験 (40%) 4 平常点(授業への取り組み)(10%)						
備 考	各UNITのリーディング問題は必ず予習しておくこと。授業で学んだ語彙を覚え、間違えた問題や分からなかった問題の復習をしっかりと行うこと。また、TOEIC-IPおよびTOEICの受験を推奨します。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	語学を活かした職業経験のある教員による実践的な語学教育を伴う授業				

授業科目名	海外語学実践		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	Dawn Kobayashi		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
外国語で日常の会話をすることができ、異文化の中で適切な行動をとることができる。								
【授業の概要】								
外国語のコミュニケーション能力を実践を通じて伸ばすとともに、異文化理解を深める。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>(大学が実施する語学研修に参加する場合)</p> <p>事前指導  現地研修(2週間～4週間)  事後指導  報告会</p> <p>*参加対象: 全学年</p> <p>(個人で海外語学研修をおこなう場合)  学生便覧をご参照ください。</p>								
テキスト	プリント							
参考書・参考資料等	事前指導で指示をします。							
学生に対する評価	現地教育機関の成(40%)と事前・事後指導(60%)							
備 考	事前指導で説明をします。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	学外での実習、フィールドワーク等を伴う授業					



授業科目名	海外語学実践		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	高垣 俊之		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
外国語で日常の会話をすることができ、異文化の中で適切な行動をとることができる。								
【授業の概要】								
外国語のコミュニケーション能力を実践を通じて伸ばすとともに、異文化理解を深める。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>(大学が実施する語学研修に参加する場合)</p> <p>事前指導  現地研修(2週間～4週間)  事後指導  報告会</p> <p>*参加対象: 全学年</p> <p>(個人で海外語学研修をおこなう場合)  学生便覧をご参照ください。</p>								
テキスト	プリント							
参考書・参考資料等	事前指導で指示をします。							
学生に対する評価	現地教育機関の成績(80%)と事前・事後指導(20%)							
備 考	事前指導で説明をします。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	学外での実習、フィールドワーク等を伴う授業					

授業科目名	簿記入門	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	前田 謙二	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 商業)  施行規則に定める科目区分又は事項等…商業の関係科目</p>							
この授業の基礎となる科目	特になし	次に履修が望まれる科目	商業簿記、工業簿記、財務諸表論				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>簿記の考え方を理解し、企業の財政状況及び期間業績を算定できるようになることです。簿記入門では、具体的には日商簿記検定3級レベルの簿記における精算表の作成までの知識と技術を習得することを目指します。</p>							
【授業の概要】							
<p>いくら儲かっているのか、期日までにお金が支払えるのか、などを把握できないと商売は成り立ちません。簿記はこれらの点を把握する知識であり、技術です。簿記なしに商売などは出来ません。簿記の考え方を学習することは、会計学だけでなく経営学や経済学などの学習、また就職時及び起業時の一般常識としての基礎知識であり、必須のものです。簿記の知識と技術を問題練習を通じて、体系的に習得します。</p>							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第1回 簿記の歴史・簿記の流れと財務諸表の見方  第2回 商品売買  第3回 現金預金  第4回 手形  第5回 有価証券と固定資産  第6回 その他の取引(1)  第7回 その他の取引(2)  第8回 仕訳の総復習(中間テスト)と解説  第9回 帳簿の仕組み  第10回 試算表  第11回 伝票と仕訳日計表  第12回 決算手続(1)  第13回 決算手続(2)  第14回 精算表(1)  第15回 精算表(2)</p>							
テキスト	滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書(第8版)』(TAC出版、2020)						
参考書・参考資料等	滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の問題集(第8版)』(TAC出版、2020)						
学生に対する評価	中間テスト(30%)と期末テスト(70%)で評価します。						
備 考	簿記では知識と技術の習得が重要で、必ず手を動かしてください。講義でのテキストに合わせて、問題集での復習は必修です。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	税理士である教員による授業				

授業科目名	金融論1	履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	神崎 稔章	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 商業)  施行規則に定める科目区分又は事項等…商業の関係科目</p>							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目	貨幣経済学				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>1. カレントな動向を踏まえた現代経済の金融的側面を理解する。  2. 金融が様々なトピックを含んだ学問であることを理解する。</p>							
【授業の概要】							
<p>目的:金融は経済の血液と呼ばれる程、社会に欠かせないものである。現代社会において発生するリスクは金融にまつわるものに起因していることが少なくない。本講義は基礎的な理論や制度、金融に関連する体系的習得のための講義を行う。</p> <p>概要:貨幣や金融機関の役割、経済循環と金融、金融機関をはじめとする金融経済に必要な仕組みを説明する。</p>							
【授業計画】 講 義 内 容							
<p>第 1回 ガイダンス  第 2回 金融の位置づけ  第 3回 貨幣とは？(1)貨幣の機能  第 4回 貨幣とは？(2)貨幣の進化、決済の仕組み  第 5回 国民経済計算勘定(1)三面等価  第 6回 国民経済計算勘定(2)対外収支と国民経済  第 7回 我が国の経済と地域の資金循環  第 8回 金融仲介機関の役割と流動性の供給(1)間接金融と直接金融、市場型間接金融  第 9回 金融仲介機関の役割と流動性の供給(2)信用創造  第10回 金融機関の役割と種類(1)金融仲介機関と日本の銀行  第11回 金融機関の役割と種類(2)証券会社、保険会社、ノンバンク  第12回 金融機関の役割と種類(3)公的金融機関  第13回 金融再編とメガバンク  第14回 地域金融の役割と中小企業金融  第15回 インターネット銀行</p>							
テキスト	板書やスクリーンに映し出す補足資料を用いて授業を行う。						
参考書・参考資料等	家森信善『金融論 (【ベーシック+】)』中央経済社、2016年。 吉野直行『改訂版 社会と銀行』放送大学教育振興会、2014年。						
学生に対する評価	期末試験の結果によって評価する。						
備 考	配布資料はあくまで授業の材料である。自らが考えノートを作り試験に備えること。参考書や新聞を読むなど日頃から自主的な学習を行うこと。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	保険業界や証券会社の方による講演を予定している。				

授業科目名	金融論2		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	神崎 稔章		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 商業)  施行規則に定める科目区分又は事項等…商業の関係科目</p>								
この授業の基礎となる科目	金融論1		次に履修が望まれる科目		貨幣経済学			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>カレントな動向を踏まえた現代経済の金融的側面を理解する。</p>								
【授業の概要】								
<p>目的:金融は経済の血液と呼ばれる程、社会に欠かせないものである。現代社会において発生するリスクは金融にまつわるものに起因していることが少なくない。本講義は基礎的な理論や制度、金融に関連する体系的習得のための講義を行う。  概要:金融市場と金利、債券や株式、マクロ経済と金融政策、金融危機、金融規制等金融経済に関わる内容を説明する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 ガイダンス  第 2回 金融市場(1)短期金融市場  第 3回 金融市場(2)長期金融市場  第 4回 金融市場の変遷  第 5回 デリバティブ(1)先渡と先物、オプション、スワップ  第 6回 デリバティブ(2)二項モデル、BSモデル  第 7回 金利と資産価格  第 8回 リスク・ファイナンス(1)経済主体と損害保険  第 9回 リスク・ファイナンス(2)ART、証券化  第10回 伝統的なマクロ経済政策  第11回 金融政策の目的と手段、非伝統的金融政策の効果  第12回 信用秩序の維持、自己資本規制、預金保険制度を中心とするブルーデンス政策  第13回 サブプライム・ローン問題(1) その背景と証券化  第14回 サブプライム・ローン問題(2) 危機への対応  第15回 まとめ</p>								
テキスト	板書やスクリーンに映し出す補足資料をスクリーンに映し出して授業を行う。							
参考書・参考資料等	家森信善『ベーシック+金融論』中央経済社、2016年。 伊藤正直『金融危機は再びやってくる』岩波書店、2012年。							
学生に対する評価	期末試験の結果によって評価する。							
備 考	配布資料はあくまで授業の材料である。自らが考えノートを作り試験に備えること。参考書や新聞を読むなど日頃から自主的な学習を行うこと。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		保険業界や証券会社の方による講演を予定している。				

授業科目名	マーケティング論		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	小川 長		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 商業)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・商業の関係科目</p>								
この授業の基礎となる科目	経営学入門・総論		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>マーケティングに関する一般教養や専門試験レベルの内容を修得すると同時に、実践的なマーケティング活動、営業活動などに資する能力を修得します。</p>								
【授業の概要】								
<p>マーケティングの理論的な知識の修得に加えて、新しいマーケティングの考え方の修得を目指します。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 マーケティング発想の経営  第 2回 マーケティングのなりたち  第 3回 マーケティングの基本概念  第 4回 戦略的マーケティング  第 5回 製品のマネジメント  第 6回 価格のマネジメント  第 7回 広告のマネジメント  第 8回 中間のまとめ(中間試験)  第 9回 チャネルとサプライチェーンのマネジメント  第10回 営業のマネジメント  第11回 顧客のマネジメント  第12回 ブランド構築のマネジメント  第13回 ブランド組織のマネジメント  第14回 企業の社会責任  第15回 総まとめ</p>								
テキスト	1からのマーケティング[第3版](石井淳蔵ほか)碩学舎							
参考書・参考資料等	講義の中で随時紹介します。							
学生に対する評価	中間試験(30%)、期末試験(70%)で評価します。授業への積極的な参加を加点評価します。							
備 考	各課題の事例企業を事前に調べておくこと。わからないところは必ず質問してクリアにすること。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	経営コンサルタントとしての勤務経歴を持つ教員による実践的な授業					

授業科目名	ビジネス英語		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	ナカムラ・イエン・イセオ		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	TOEIC1		次に履修が望まれる科目		TOEIC2			
【授業の到達目標及びテーマ】								
Theme Level up oral communications skills in English								
Goals (1) Students will be able to talk about simple business and work related topics in English clearly and smoothly. (2) Students will be able to listen and understand speeches in English made by other students. (3) Students will become accustomed to listening to and understanding what the teacher says in English.								
【授業の概要】								
Summary  The primary focus is on conducting the class entirely in English. Business English is about learning how to communicate basic ideas in a natural English language environment. Students will make weekly mini-speeches on business and work related topics. Students will also take notes and do dictations well. Students should participate actively, and work well with other students in a team.								
【授業計画】 講 義 内 容								
第 1回 Introduction to the class rules, content, teacher, and students								
第 2回 Weekly routine: Mini-speeches, taking notes, dictation, and more oral communicative practice								
第 3回 Weekly routine								
第 4回 Weekly routine								
第 5回 Weekly routine								
第 6回 Preparation for Midterm Check part 1								
第 7回 Preparation for Midterm Check part 2								
第 8回 Midterm Check of students's understanding and progress								
第 9回 Review of performance on the Midterm Check including making self-corrections.								
第10回 Weekly routine: Mini-speeches, taking notes, dictation, and more oral communicative practice								
第11回 Weekly routine								
第12回 Weekly routine								
第13回 Weekly routine								
第14回 Preparation for Final Test part 1								
第15回 Preparation for Final Test part 2								
テキスト	No required textbook. Students and teacher will decide suitable materials.							
参考書・参考資料等	None							
学生に対する評価	30% midterm check, 50% final test, 10% class participation, 10% reflective report							
備 考	The teacher will give advice on how to preview and review the materials presented.							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	Native English speaker who is a retired Professor will teach this class for active learning.					

授業科目名	租税論		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	前田 謙二		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	簿記入門		次に履修が望まれる科目		税務会計論			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>所得税法の問題を中心に、租税法の基本的な考え方を理解できるようになります。ただ、現行税制の理解だけではなく、現在の問題点も把握し、それに対して自分の考えを持てるようになることを目指します。</p>								
【授業の概要】								
<p>最も身近な所得税法の問題を中心に、現行制度の仕組みを体系的に理解します。出来るだけ、具体的な事例から理論的な理解へと講義を展開していきます。租税法の入門ですので、あまり法律の条文にこだわらず内容の理解や問題点を考えることを重視します。授業の予習として、参考書の税務大学校講本などの該当部分を読むことが効果的だと思います。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 日本の財政と税制の概略  第2回 税法の基本概念と年末調整  第3回 現行所得税の仕組み  第4回 所得の概念  第5回 課税単位  第6回 所得税額算出手順の概観と利子・配当所得  第7回 譲渡所得(趣旨・課税範囲)  第8回 譲渡所得(計算方法・課税方法)  第9回 給与所得と退職所得  第10回 事業所得(意義と範囲)と不動産所得  第11回 事業所得(計算方法・課税方法)と一時所得と雑所得  第12回 所得計算の通則  第13回 収入金額と必要経費  第14回 所得の人的帰属  第15回 所得税額の計算</p>								
テキスト	<p>原則として、教材ホルダーを通じて、レジメを配付します。  谷口勢津夫ほか『基礎から学べる租税法(第2版)』(弘文堂、2019)を読むことで、所得税法全体の流れが理解でき、税務会計論でもこのテキストを利用できる。</p>							
参考書・参考資料等	<p>税務大学校講本(所得税法平成31年度版(<a href="https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/syotoku/mokuji.htm">https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/syotoku/mokuji.htm</a>))  佐藤英明『ブレップ租税法』(弘文堂、2015)  佐藤英明『スタンダード所得税法(第2版補正版)』(弘文堂、2018)  中里実ほか『租税法判例六法(第4版)』(有斐閣、2019)</p>							
学生に対する評価	<p>期末試験の成績(100%)で評価します。</p>							
備 考	<p>講義内容については、若干の変更もあり得ます。  所得税法の細部にこだわらず、全体的な考え方を理解してください。</p>							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		税理士である教員による授業				

授業科目名	経営戦略論		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	小川 長		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	経営学入門・総論		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
戦略経営に関する一般教養や専門試験レベルの内容を修得すると同時に、実践的な戦略策定活動に資する能力を修得します。								
【授業の概要】								
戦略経営の理論的な知識の修得に加えて、新しい経営戦略の考え方の修得を目指します。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 経営環境(1) 戦略とは</p> <p>第 2回 経営環境(2) 業界の構造分析</p> <p>第 3回 経営環境(3) 戦略グループ</p> <p>第 4回 事業戦略(1) 基本戦略</p> <p>第 5回 事業戦略(2) 製品ライフサイクル別戦略</p> <p>第 6回 事業戦略(3) 市場地位別戦略</p> <p>第 7回 事業戦略(4) 能力基盤と事業システム</p> <p>第 8回 中間のまとめ (中間テスト)</p> <p>第 9回 企業戦略(1) 事業領域</p> <p>第10回 企業戦略(2) 成長戦略</p> <p>第11回 企業戦略(3) 経営資源とその展開</p> <p>第12回 経営組織(1) 組織構造</p> <p>第13回 経営組織(2) 組織文化</p> <p>第14回 経営組織(3) 企業変革</p> <p>第15回 総まとめ</p>								
テキスト	『1からの戦略論(第2版)』嶋口充輝ほか 碩学舎							
参考書・参考資料等	講義の中で随時紹介します。							
学生に対する評価	中間試験(30%)、期末試験(70%)で評価します。授業への積極的な参加を加点評価します。							
備 考	各課題の事例企業を事前に調べておくこと。わからないところは必ず質問してクリアにすること。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	経営コンサルタントとしての勤務経歴を持つ教員による実践的な授業					



授業科目名	品質管理論		履修年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	邵 忠		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
戦後日本企業内及び企業間で展開された全社品質管理活動を理解し、生産現場における品質管理の7つ道具や品質管理の基礎知識などを勉強させ、品質管理の技術と技法を生産実践の中に活用できることを目標とする。								
【授業の概要】								
品質管理の歴史及び戦後に始まった日本的品質管理の実践を通じて、品質管理の日本経済の発展への貢献とその重要性を理解させ、企業内全員参加の「全社品質管理(TQC)」と「統計的品質管理(SQC)」を中心に講義する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 授業のガイダンス</p> <p>第 2回 品質と管理の概念: 製品の質だけでなく、量も重視し、管理サイクルと計画機能など</p> <p>第 3回 品質管理の定義: 工程に品質を組み込み、全社品質管理など</p> <p>第 4回 品質管理の歴史: 戦後日本の品質管理の歴史を概観する</p> <p>第 5回 品質問題の諸元(1): 品質問題としての品質欠陥・事故・事件、品質のコストなど</p> <p>第 6回 品質問題の諸元(2): 品質情報・意識、PL法と国際規格ISO9000など</p> <p>第 7回 統計的品質管理(SQC)の基礎: 平均の意義、標準偏差(<math>\sigma</math>)、確率分布など</p> <p>第 8回 中間試験</p> <p>第 9回 日本の全社品質管理(TQC): QCストーリーとQC7つ道具によるQCサークル活動の展開など</p> <p>第10回 品質管理の7つの道具: チェックシート、パレート図</p> <p>第11回 品質管理の7つの道具: ヒストグラム、特性要因図</p> <p>第12回 品質管理の7つの道具: 管理図、散布図</p> <p>第13回 品質管理の検査と抜き取り検査: 検査と抜き取り検査の違い、抜き取り検査の利点</p> <p>第14回 品質管理の抜き取り検査: 抜き取り検査の詳細</p> <p>第15回 これからの品質管理: 全社品質経営への発展及び諸課題</p> <p>第16回 期末試験</p>								
テキスト	プリント配布							
参考書・参考資料等	奥村士郎著「品質管理入門テキスト」日本規格協会							
学生に対する評価	試験、レポート提出と授業態度で判定する。							
備 考	配布したプリント及び参考書を予習し、復習の一環として課題を出す。また小テストを実施。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		次の経歴・経験を持つ教員による授業 ・セメントや大型陶板プラントの建設や試運転に携わった経験 ・家電のプリント基板の製造現場での品質検査の業務に携わった経験 ・自動車用板ガラス加工品の業界検査委員として、検査実施に参加した経験 ・自動車や家電及びアパレル生産ラインなど多数の現場調査の経験				

授業科目名	税務会計論		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	前田 謙二		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	簿記入門、商業簿記、会社法、財務諸表論、租税論			次に履修が望まれる科目	特になし			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>法人税法の問題(国際税務を含む)を中心に、租税法の基本的な考え方を理解できるようになります。ただ、現行税制の理解だけではなく、現在の問題点も把握し、それに対して自分の考えを持てるようになることを目指します。</p>								
【授業の概要】								
<p>会計や会社法の知識をベースに、法人税法の仕組みを体系的に理解します。今後の経済の更なる国際化も考慮して、国際課税の仕組みも講義内容に含めます。出来るだけ、具体的な事例から理論的な理解へと講義を展開していきますので、あまり法律の条文にこだわらず、内容の理解や問題点を考えることを重視します。授業の予習として、参考書の税務大学校講本などの該当部分を読むことが効果的だと思います。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 租税法基礎理論  第2回 法人税法の特徴(所得税法との比較・近年のトレンド)  第3回 納税義務者と課税範囲  第4回 所得計算の通則(確定決算主義・公正処理基準・別段の定め)  第5回 益金  第6回 損金  第7回 資本等取引  第8回 寄附金課税等  第9回 欠損金  第10回 組織再編税制  第11回 連結納税とグループ税制  第12回 国際課税の仕組み  第13回 外国法人課税  第14回 租税条約  第15回 国際的租税回避事例</p>								
テキスト	<p>原則として、教材ホルダーを通じて、レジメを配付します。  谷口勢津夫『基礎から学べる租税法(第2版)』(弘文堂、2019)で、授業の全体的な流れが復習できる。</p>							
参考書・参考資料等	<p>税務大学校講本(法人税法平成31年度版(<a href="https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/houjin/mokuji.htm">https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/houjin/mokuji.htm</a>))  中里実ほか『租税法判例六法(第4版)』(有斐閣、2019)  渡辺徹也『スタンダード法人税法』(弘文堂、2018)</p>							
学生に対する評価	<p>期末試験の成績(100%)で評価します。</p>							
備 考	<p>講義内容については、若干の変更もあり得ます。  法人税法の細部にこだわらず、全体的な考え方を理解してください。</p>							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		税理士である教員による授業				

授業科目名	証券市場論		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	小川 長		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	統計学・ファイナンス論		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
証券市場の意義、仕組みを理解するとともに、株式、債券などの個々の金融商品に関する知識を学び、明日からでも実践で十分に使えるレベルのリテラシーを修得します。								
【授業の概要】								
証券市場に関する知識と証券に関する実践的なリテラシーの修得を目指します。日経新聞の記事等を利用して、アップ・トゥ・デートなトピックを交えた興味深く、役に立つ授業を展開します。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 企業の仕組みと有価証券</p> <p>第 2回 株式市場(1) 株式のしくみ</p> <p>第 3回 株式市場(2) 株式市場のしくみ</p> <p>第 4回 株式市場(3) 株式投資</p> <p>第 5回 債券市場(1) 債券のしくみ</p> <p>第 6回 債券市場(2) 債券市場のしくみ</p> <p>第 7回 債券市場(3) 債券投資</p> <p>第 8回 中間のまとめ (中間テスト)</p> <p>第 9回 投資信託(1) 投信のしくみ</p> <p>第10回 投資信託(2) 投信の選択</p> <p>第11回 デリバティブ(1) 先物取引</p> <p>第12回 デリバティブ(2) オプション取引</p> <p>第13回 ポートフォリオ理論(1) リスクとリターン</p> <p>第14回 ポートフォリオ理論(2) ポートフォリオの構築</p> <p>第15回 総まとめ</p>								
テキスト	使用しません。							
参考書・参考資料等	講義の中で随時紹介します。							
学生に対する評価	中間試験(30%)、期末試験(70%)で評価します。授業への積極的な参加を加点評価します。							
備 考	わからないところは必ず質問してクリアにすること。復習のつもりで、実際に日経新聞を読むこと。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	経営コンサルタントとしての勤務経歴を持つ教員による実践的な授業					

授業科目名	プログラミング1	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	有吉 勇介	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・コンピュータ・情報処理(実習を含む。)</p>							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目	プログラミング2				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>簡単なプログラムを読んで理解できるようになる。プログラミングの基本事項を理解し、簡単な説明ができるようになる。</p>							
【授業の概要】							
<p>現在、ほとんどのソフトウェアはCやJavaなどの手続き型という種類のプログラミング言語で作成されています。この授業では、手続き型言語によるプログラム作成のための基本事項や文法等について学びます。</p>							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第 1回 プログラミング入門  第 2回 変数と型  第 3回 式と代入、計算と演算子  第 4回 条件と分岐1  第 5回 条件と分岐2  第 6回 繰り返し1  第 7回 繰り返し2  第 8回 前半のまとめ  第 9回 配列  第10回 プログラムの部品化、メソッド1  第11回 プログラムの部品化、メソッド2  第12回 ファイル入出力  第13回 データ構造とアルゴリズムの基礎1  第14回 データ構造とアルゴリズムの基礎2  第15回 応用とまとめ</p>							
テキスト	プリントを配布する予定です。						
参考書・参考資料等	林晴比古『明快入門Java』SBクリエイティブ						
学生に対する評価	授業への参加と試験成績から総合的に評価します。						
備 考	原則、プログラミング1実習と同時受講すること プログラミング1実習で復習をしっかりとください						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	企業でのシステム設計等に関わったことのある教員による授業				

授業科目名	プログラミング1実習		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	1
科目コード		担当教員名	有吉 勇介		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・コンピュータ・情報処理(実習を含む。)</p>								
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目	プログラミング2					
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>手続き型言語で簡単なプログラムを作成できるようになる。</p>								
【授業の概要】								
<p>コンピュータに意図した作業を行わせるために、処理の流れを考え、それに基づきプログラムを作成できるようになることを目指します。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 プログラム作成・プログラム実行の基本  第 2回 変数と型  第 3回 式と代入、計算と演算子  第 4回 条件と分岐1  第 5回 条件と分岐2  第 6回 繰り返し1  第 7回 繰り返し2  第 8回 前半のまとめ  第 9回 配列  第10回 プログラムの部品化1  第11回 プログラムの部品化2  第12回 ファイル入出力  第13回 データ構造とアルゴリズムの基礎1  第14回 データ構造とアルゴリズムの基礎2  第15回 応用とまとめ</p>								
テキスト	プリントを配布する予定です。							
参考書・参考資料等	林晴比古『明快入門Java』SBクリエイティブ							
学生に対する評価	実習への参加と試験成績から総合的に評価します							
備 考	原則、プログラミング1と同時受講すること 課題は期日までに提出すること							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	企業でのシステム設計等に関わったことのある教員による授業					

授業科目名	情報システム設計実習		履修年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	1
科目コード		担当教員名	有吉 勇介		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
情報システムの分析設計プロセスを理解し、UML図を作成できるようになる。								
【授業の概要】								
この実習では1つの簡単な情報システムを題材として、その設計仕様書を半期を通して作成します。毎回の実習では情報システム設計論で説明した分析設計のステップを題材のシステムに対して行います。具体的には、プログラムの設計図であるUML図をPC上のUMLソフトで作成します。最終レポートでは題材としているシステムの設計仕様書を作成します。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 ユースケース図</p> <p>第 2回 イベントフローとシナリオ</p> <p>第 3回 アクティビティ図</p> <p>第 4回 画面スケッチ、画面遷移図</p> <p>第 5回 概念クラス図</p> <p>第 6回 ロバストネス図</p> <p>第 7回 シーケンス図とコミュニケーション図</p> <p>第 8回 統合クラス図、ライフサイクル分析図</p> <p>第 9回 配置図</p> <p>第10回 設計シーケンス図、設計コミュニケーション図</p> <p>第11回 設計クラス図</p> <p>第12回 要求図</p> <p>第13回 設計仕様書作成(1)</p> <p>第14回 設計仕様書作成(2)</p> <p>第15回 設計仕様書作成(3)</p>								
テキスト	テクノロジックアート他『基礎からはじめるUML 2.4』ソーテック社							
参考書・参考資料等	河合昭男著『最新UMLがわかる』技術評論社 井上樹著『ダイアグラム別UML徹底活用 第2版』翔泳社							
学生に対する評価	最終レポートの評価×実習への参加度を成績とします							
備 考	原則、情報システム設計論と同時受講すること 事前にテキストに目を通して頂くこと							
担当教員の業務経験の有無	○	業務経験の具体的内容	企業でのシステム設計等に関わったことのある教員による授業					

授業科目名	情報システム設計論		履修年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	有吉 勇介		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
情報システムの分析設計プロセスを理解し簡単な説明ができるようになる。UML図を読み取れるようになる。								
【授業の概要】								
<p>情報システム設計とは、「こんな情報システムを作ってほしい」という要望を分析整理し、プログラムの設計図である仕様書にまとめるまでの一連の作業です。この科目では、このプログラムの設計図の表記法であるUML(Unified Modeling Language)について学習します。各回の授業では、分析設計プロセスを1ステップずつとりあげ、そこで作成するUML図について学習します。この科目で学ぶオブジェクト指向分析設計とUMLの考え方は、業務分析・改善に応用されてビジネスプロセス管理に発展しており、情報系だけでなく経営系の学生にも役立つと思います。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 ユースケース分析：ユースケース図  第2回 ユースケース定義：イベントフローとシナリオ  第3回 ユースケースの流れ：アクティビティ図  第4回 画面設計：画面イメージ、画面遷移図  第5回 ドメイン分析：オブジェクト指向と概念クラス図  第6回 ロバストネス分析：BCEモデルとロバストネス図  第7回 相互作用分析：シーケンス図とコミュニケーション図  第8回 アーキテクチャ設計：VOPCと統合クラス図、ライフサイクル分析図  第9回 クラス設計、属性設計：設計クラス図 Ver.1  第10回 操作設計：設計シーケンス図、設計コミュニケーション図、設計クラス図Ver.2  第11回 SysML：要求図、ブロック定義図、内部ブロック図、パラメトリック図  第12回 ソフトウェア開発モデル、情報システムのライフサイクル  第13回 ソフトウェア・テスト：レビュー、単体テスト、結合テスト  第14回 ITサービス管理  第15回 プロジェクト管理</p>								
テキスト	テクノロジックアート他『基礎からはじめるUML 2.4』ソーテック社							
参考書・参考資料等	河合昭男著『最新UMLがわかる』技術評論社 井上樹著『ダイアグラム別UML徹底活用 第2版』翔泳社							
学生に対する評価	試験×授業への参加度を成績とします							
備 考	原則、情報システム設計実習と同時受講すること 事前にテキストに目を通して頂くこと							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	企業でのシステム設計等に関わったことのある教員による授業					

授業科目名	生産システム論		履修年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	邵 忠		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目	システム工学			
【授業の到達目標及びテーマ】								
生産の概念と意義、そして生産の意味の史的変化を理解し、幾つかの生産システム例を通じて生産システムの仕組みと最適化への理解を深め、生産システムの諸課題とそれらの課題を解決するための技術および技法の習得・活用を目標とする。								
【授業の概要】								
企業の生産活動をシステムとして捉えて、その効率化、すなわち生産システムの最適化を目指す技術・技法の習得を目的とする。20世紀以降に誕生した幾つかの生産システムを解説し、生産現場における生産管理、情報化技術・技法を講義する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 生産の意義：生産の概念と定義及び目的と意義</p> <p>第 2回 生産システムの発生と進化：生産システムの概念と定義、生産システムの誕生と進化の歴史</p> <p>第 3回 生産システムの構成と分類：生産システムの仕組みと分類</p> <p>第 4回 フォード生産システム：誕生の背景とベルトコンベヤー流れ生産の仕組み</p> <p>第 5回 トヨタ生産システム(1)：無駄排除のトヨタ生産システムの意義と仕組み</p> <p>第 6回 トヨタ生産システム(2)：無駄排除のためのJITとカンバンなどの諸技法</p> <p>第 7回 ボルボ生産システム：労働の人間化を主張するボルボ生産システムの理念と仕組み</p> <p>第 8回 中間試験</p> <p>第 9回 生産システム最適化技術(1)：工場立地計画、職場・設備計画の方法</p> <p>第10回 生産システム最適化技術(2)：工程計画、生産計画の方法</p> <p>第11回 生産システム最適化技術(3)：在庫と物流計画</p> <p>第12回 自動化と情報化の進展：自動化生産、FMS生産、CIM生産、仮想加工と循環型生産など</p> <p>第13回 循環型生産：環境や資源を重視する循環型生産の発想と仕組み</p> <p>第14回 グローバル生産：グローバル生産の全体最適化を目指すSCMの仕組みと内容</p> <p>第15回 生産システムの諸課題と今後の展望：グローバル生産の諸課題を認識し、生産システムの多元化進展を理解する</p> <p>第16回 期末試験</p>								
テキスト	プリントを配付する							
参考書・参考資料等	人見勝人著「生産システム工学」、堀江清志・澤田善次郎著「生産管理総論」など							
学生に対する評価	試験、レポート提出と受講態度で判定する。							
備 考	配布したプリント及び参考書を予習し、復習の一環として課題を出す。また小テストを実施。							
担当教員の 実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		次の経歴・経験を持つ教員による授業 ・セメントや大型陶板プラントの建設や試運転に携わった経験 ・家電のプリント基板の製造現場での品質検査の業務に携わった経験 ・自動車用板ガラス加工品の業界検査委員として、検査実施に参加した経験 ・自動車や家電及びアパレル生産ラインなど多数の現場調査の経験				



授業科目名	システム工学		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	邵 忠		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>システムの概念・定義からシステム工学の発展、体系を理解し、システムのモデル化および最適化・評価の諸手法を習得し、実際のシステム最適化問題の解決に活用できることを目標とする。</p>								
【授業の概要】								
<p>システムの理論と実証的研究、人工システムの構築とそのコントロール及び構築・運用の最適化を対象とするシステム工学は、巨大化、複雑化になりつつある、様々なシステムを総合的な見地から解析・設計・試験・運用・評価を行うための、必要不可欠な理論や技術、技法を提供するものである。</p> <p>当講義では、システム概念からシステム構築の際のシステム設計・最適化及び評価方法などの内容を習得させ、その一連の勉強を通じてシステムの考え方を養成し、システム工学の技術と技法を身につけることを目的とする。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 授業ガイダンス  第 2回 システムの概念と定義：概念、定義、目的、意義などの基礎知識  第 3回 システム工学の誕生と発展：システム工学の必要性和役割  第 4回 システムのモデル化とシミュレーション：モデル化とシミュレーションの意味と方法  第 5回 システムの最適化：巡回セールスマン問題や設備配置問題を例に理解する  第 6回 システム最適化技法：(1-1)分岐限界法の原理と仕組み  第 7回 システム最適化技法：(1-2)分岐限界法の応用手順と問題点  第 8回 中間試験  第 9回 システム最適化の技法：(2-1)遺伝アルゴリズムとその仕組み  第10回 システム最適化の技法：(2-2)遺伝アルゴリズムの応用手順と問題点  第11回 システムの制御：システム制御の理論と発展  第12回 ファジ理論：人間の曖昧な思考に基づく現実問題を解決する有効な方法論  第13回 ファジ集合：一般集合論との違い  第14回 ファジ推論と制御：日常生活のなかの事例を通じて習得する  第15回 システムの評価：システム評価のツールの階層分析法(AHP)  第16回 期末試験</p>								
テキスト	プリント配布							
参考書・参考資料等	随時に指示する							
学生に対する評価	試験、レポート提出と受講態度で判定する。							
備 考	配布したプリント及び参考書を予習し、復習の一環として課題を出す。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		次の経歴・経験を持つ教員による授業 ・セメントや大型陶板プラントの建設や試運転に携わった経験 ・家電のプリント基板の製造現場での品質検査の業務に携わった経験 ・自動車用板ガラス加工品の業界検査委員として、検査実施に参加した経験 ・自動車や家電及びアパレル生産ラインなど多数の現場調査の経験				

授業科目名	情報基礎理論		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	有吉 勇介、本田 治		担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	情報とコンピュータ		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
情報科学・情報技術の基本的事項を説明できるようになる。また、情報科学・情報技術の基礎的な計算ができるようになる。								
【授業の概要】								
この科目は「情報とコンピュータ」等で学んだ情報科学・情報技術の知識をより深めるための科目です。これらの知識は、情報技術者はもちろん、情報を使いこなすことを求められる現代の社会人にとって必要不可欠なものです。この科目では、CPU・メモリ等のコンピュータハードウェアの基本的な仕組み、オペレーティングシステムの基礎、情報セキュリティ管理の基本、データ構造とアルゴリズムなどプログラムの基礎理論等について学習します。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 ハードウェア基礎1 コンピュータの構成要素、CPUの仕組み</p> <p>第2回 ハードウェア基礎2 メインメモリの管理、キャッシュメモリの管理</p> <p>第3回 ハードウェア基礎3 入出力装置の仕組み、補助記憶装置の仕組み</p> <p>第4回 基本ソフトウェア1 OSの概要、プロセスの3状態</p> <p>第5回 基本ソフトウェア2 プロセス・スケジューリング方式、排他制御</p> <p>第6回 基本ソフトウェア3 実記憶管理、メモリ割付け方式</p> <p>第7回 基本ソフトウェア4 仮想記憶管理、ページ置換え方式、入出力制御</p> <p>第8回 前半のまとめ</p> <p>第9回 情報セキュリティ管理1 情報セキュリティ管理の基本、インシデント対応</p> <p>第10回 情報セキュリティ管理2 リスク管理と情報セキュリティ管理、ISMS</p> <p>第11回 プログラム基礎1 プログラミング言語の基礎</p> <p>第12回 プログラム基礎2 データ構造(1)</p> <p>第13回 プログラム基礎3 データ構造(2)</p> <p>第14回 プログラム基礎4 アルゴリズム(1)</p> <p>第15回 プログラム基礎5 アルゴリズム(2)</p>								
テキスト	ポータル等に資料ファイルをアップロードするので、各自でダウンロードして下さい。もしくはプリントを配布しません。							
参考書・参考資料等	講義中に随時紹介する							
学生に対する評価	平常点等(30%)、試験(70%)							
備 考	有吉と本田によるオムニバス授業の予定です。							
担当教員の 実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	企業でのシステム設計等に関わったことのある教員による授業					

授業科目名	情報と職業	履修年次	3	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	田村 聡一郎	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・情報と職業</p>							
この授業の基礎となる科目	特になし	次に履修が望まれる科目	特になし				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>以下の項目を達成目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報系企業の業種や職種の概要を説明できる。</li> <li>2. 情報系企業の各職種のキャリアパスと資格および必要スキルについて説明できる。</li> <li>3. 情報システム開発の流れおよび各職種の役割を説明できる。</li> <li>4. 情報系企業で利用されるツール(オーダー制、RFPなど)について必要性和概要を説明できる。</li> <li>5. 情報教員としての役割を説明できる。</li> </ol>							
【授業の概要】							
<p>現在の高度情報化社会は多くの情報系企業によって支えられているが、その業務内容や職務内容を十分理解しているとは言えない。本講義では情報系企業の業種や職種とその内容、さらに企業人としての常識や企業倫理等を具体的に学習することによって、業務内容や職務内容、必要なスキルなどを理解することを目的とする。  また情報教員希望学生は、就職希望の生徒に正しく職業教育が出来ることを目的とする。</p>							
【授業計画】 講 義 内 容							
<p>第 1回 受講ガイダンス  第 2回 IT業界の概要  第 3回 情報系企業の業種  第 4回 情報系企業の職種と役割  第 5回 キャリアパスとスキル  第 6回 SEのスキルと資格  第 7回 情報システムサービス-ソリューションプロバイダ  第 8回 情報システムの開発と各職種の役割-ソフトウェア開発を主としたシステム導入  第 9回 情報システムの開発と各職種の役割-ハードウェアを伴うシステム導入  第10回 SEの就業システム-オーダー制  第11回 現場におけるストレスと解消法  第12回 RFP提案依頼書の目的と概要  第13回 プロジェクトマネジメント  第14回 情報教員としての役割  第15回 情報系企業におけるコミュニケーション</p>							
テキスト	特になし。必要な資料は配付する。						
参考書・参考資料等	特になし。						
学生に対する評価	定期試験(50%)、毎回実施するミニツツレポートの内容、および授業に対する取り組みや態度(50%)						
備 考	シラバスの項目について新聞や書籍などをもとに概要を調べる事で予習とする。 配布した資料の内容を理解することで復習とする。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	情報系企業におけるシステムエンジニアとしてのシステム設計およびプロジェクトマネジメント経験を有する教員による授業				

授業科目名	文芸創作専門演習a		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	光原 百合		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目	文芸創作専門演習b				
【授業の到達目標及びテーマ】								
どのような文章を書けば読者に伝わりやすいかを理解する。								
【授業の概要】								
この授業では、各自の創作のスタイルをつかむことを目指し、まず様々な作品の分析とそれに関する議論を進めながら表現技術の養成に取り組む。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回～第 3回 作品分析(1)鷹狩型と鶉飼型</p> <p>第 4回 風景描写執筆と合評</p> <p>第 5回～第 6回 作品分析(2)語り手と視点の問題</p> <p>第 7回 評論文執筆と合評</p> <p>第 8回～第 9回 作品分析(3)魅力的なキャラクター造形とは</p> <p>第10回～第11回 作品分析(4)五感を使った効果的な描写</p> <p>第12回～第13回 作品分析(5)作品執筆のパターン</p> <p>第14回 ショートショート執筆と合評</p> <p>第15回 ビブリオバトル実践</p>								
テキスト	特になし							
参考書・参考資料等	随時紹介する。							
学生に対する評価	提出課題(90) 授業中のコメント・質問・参加状況(10)							
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の興味の高さにより、授業計画は変更する場合がある。</li> <li>・この授業ではかなりの量の執筆が必要になるので、安易な気持ちでの受講は慎んでほしい。</li> </ul>							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	小説を執筆し、出版している作家の経歴を持つ教員による授業					

授業科目名	文芸創作専門演習b		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	光原 百合		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	文芸創作専門演習a		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
まとまりのある作品を執筆し、的確に推敲できるようになる。								
【授業の概要】								
この授業では、前期の授業で研究した執筆技術をベースに、各自の文芸創作のスタイルを実践を通してつかむことを目指し、様々なスタイルの執筆・詳細な分析検討を行う。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回～第 3回 創作演習(1)尾道創作民話を書く</p> <p>第 4回～第 5回 創作演習(2)プロットを立てて書く</p> <p>第 6回～第 7回 創作演習(3)色と味のある文章を書く その1</p> <p>第 8回～第 9回 創作演習(4)リドルストーリーの続きを書く</p> <p>第10回～第11回 創作演習(5)自己PRの文章を書く</p> <p>第12回～第13回 創作演習(6)色と味のある文章を書く その2</p> <p>第14回～第15回 創作演習(7)ビジュアルイメージから発想して書く</p>								
テキスト	特になし							
参考書・参考資料等	随時紹介する。							
学生に対する評価	提出課題(90) 授業中のコメント・質問・参加状況(10)							
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の興味具合により、授業計画が変更される場合がある。</li> <li>・この授業ではかなりの量の執筆が必要になるので、安易な気持ちでの受講は慎んでほしい。</li> </ul>							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	小説を執筆し、出版している作家の経歴を持つ教員による授業					

授業科目名	国語教育学専門演習a		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	信木 伸一		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)  施行規則に定める科目区分又は事項等…各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>								
この授業の基礎となる科目	教職に関する科目		次に履修が望まれる科目		国語科教育法2			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>1【学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。】  (1)国語教育学・文学・言語学等の学問領域の知見を踏まえて、教材を分析し、効果的な扱い方を考察することができる。  (2)教材に即して学習内容を考察し、そこに位置づけられる発展的な学習の具体例を示すことができる。  2【基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。】  (1)生徒の認識・思考、学力等の実態と関わらせながら、学びの内実を協働的に創出していく学習活動について、自らの授業観をまとめることができる。  (2)国語科における実践研究の動向を踏まえて、これからの学習指導構築に必要な教材研究の観点と方法をまとめることができる。</p>								
【授業の概要】								
<p>国語教育学、文学、言語学等の知見を踏まえて、教材研究の力を鍛える。その活動を通して国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力、及び学習指導要領に示された学習内容について理解を深める。第4回以降は、教材の分析と考察を行う演習を行う。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回: 学習者の実態と学びの内実の創出  第2回: 国語科学習指導の現在と教材研究 表現と文章構成の工夫  第3回: 国語科学習指導の現在と教材研究 「語り」の構造ともの見方・考え方  第4回: 中学校文学教育の研究1 教材の表現および構造についての分析・考察  第5回: 中学校文学教育の研究2 学習内容の考察  第6回: 中学校説明文教育の研究1 教材の表現および構造についての分析・考察  第7回: 中学校説明文教育の研究2 学習内容の考察  第8回: 中学校古典教育の研究1 教材の表現および構造についての分析・考察  第9回: 中学校古典教育の研究2 学習内容の考察  第10回: 高等学校文学教育の研究1 教材の表現および構造についての分析・考察  第11回: 高等学校文学教育の研究2 学習内容の考察  第12回: 高等学校評論文教育の研究1 教材の表現および構造についての分析・考察  第13回: 高等学校評論文教育の研究2 学習内容の考察  第14回: 高等学校古典教育の研究1 表現と構造の分析  第15回: 高等学校古典教育の研究2 教材の効果的な扱い方と発展的な学習についての考察</p>								
テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年3月公示)本体』、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)本体』、文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年3月公示)解説 国語科編』、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)解説国語編』、田近洵一・鳴島甫編『中学校・高等学校 国語科教育法研究』(東洋館出版社)  (※上記テキストは、国語科教育法Ⅰ・Ⅱ、国語教育学専門演習bでも共通して使用)</p>							
参考書・参考資料等	授業で紹介する。							
学生に対する評価	課題研究の発表(70%)、授業での質問・意見等の参加状況(30%)							
備 考	授業で使用する「教材」は、予め配布するので、読んでおくこと。テキストは、授業後に関連した部分を読むようにすると、理解が深まり定着する。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	教員免許を持ち、学校現場での実務経験を持つ教員による授業					

授業科目名	国語教育学専門演習b		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2																																																
科目コード		担当教員名	信木 伸一		担当形態	単独																																																		
【科目の位置付け】																																																								
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)  施行規則に定める科目区分又は事項等…各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>																																																								
この授業の基礎となる科目	教職に関する科目		次に履修が望まれる科目		国語科教育法2																																																			
【授業の到達目標及びテーマ】																																																								
<p>1【学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。】  (1)国語教育学の現代的な課題を踏まえて、授業を通じて学ぶ内実について、自らの指導観をまとめることができる。  2【基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。】  (1)国語科における実践研究を学習者の学びの内実から分析・考察し、そこから学んだことを活かして自らの授業計画を立案することができる。</p>																																																								
【授業の概要】																																																								
<p>様々な学習指導理論を基盤とした国語科実践研究を検討し、授業設計の考え方や指導方法・工夫を学ぶ。その活動を通して国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力、及び学習指導要領に示された学習内容について理解を深める。第5回以降は、授業実践を対象に分析と考察を行い、自らの授業計画を立案する演習を行う。</p>																																																								
【授業計画】																																																								
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">講</th> <th style="width: 30%;">義</th> <th style="width: 40%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>国語教育学の現代的課題—「対話」「協働」「批評」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>国語教育学の現代的課題—「文学教育」「言語技能教育」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>国語科単元学習1 大村はまの「書くこと」の実践に学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>国語科単元学習2 大村はまの「聞くこと・話すこと」実践に学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>文学教育1 中学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>文学教育2 高等学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>伝統的言語文化の教育1 中学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>伝統的言語文化の教育2 高等学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>論理的文章の教育1 中学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>論理的文章の教育2 高等学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>「書くこと」の教育1 中学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>「書くこと」の教育2 高等学における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>「話すこと／聞くこと」の教育1 中学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>「話すこと／聞くこと」の教育2 高等学校における実践研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>国語科における到達度評価・パフォーマンス評価の実践研究</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									講	義	内 容	第1回	国語教育学の現代的課題—「対話」「協働」「批評」		第2回	国語教育学の現代的課題—「文学教育」「言語技能教育」		第3回	国語科単元学習1 大村はまの「書くこと」の実践に学ぶ		第4回	国語科単元学習2 大村はまの「聞くこと・話すこと」実践に学ぶ		第5回	文学教育1 中学校における実践研究		第6回	文学教育2 高等学校における実践研究		第7回	伝統的言語文化の教育1 中学校における実践研究		第8回	伝統的言語文化の教育2 高等学校における実践研究		第9回	論理的文章の教育1 中学校における実践研究		第10回	論理的文章の教育2 高等学校における実践研究		第11回	「書くこと」の教育1 中学校における実践研究		第12回	「書くこと」の教育2 高等学における実践研究		第13回	「話すこと／聞くこと」の教育1 中学校における実践研究		第14回	「話すこと／聞くこと」の教育2 高等学校における実践研究		第15回	国語科における到達度評価・パフォーマンス評価の実践研究	
講	義	内 容																																																						
第1回	国語教育学の現代的課題—「対話」「協働」「批評」																																																							
第2回	国語教育学の現代的課題—「文学教育」「言語技能教育」																																																							
第3回	国語科単元学習1 大村はまの「書くこと」の実践に学ぶ																																																							
第4回	国語科単元学習2 大村はまの「聞くこと・話すこと」実践に学ぶ																																																							
第5回	文学教育1 中学校における実践研究																																																							
第6回	文学教育2 高等学校における実践研究																																																							
第7回	伝統的言語文化の教育1 中学校における実践研究																																																							
第8回	伝統的言語文化の教育2 高等学校における実践研究																																																							
第9回	論理的文章の教育1 中学校における実践研究																																																							
第10回	論理的文章の教育2 高等学校における実践研究																																																							
第11回	「書くこと」の教育1 中学校における実践研究																																																							
第12回	「書くこと」の教育2 高等学における実践研究																																																							
第13回	「話すこと／聞くこと」の教育1 中学校における実践研究																																																							
第14回	「話すこと／聞くこと」の教育2 高等学校における実践研究																																																							
第15回	国語科における到達度評価・パフォーマンス評価の実践研究																																																							
テキスト	<p>国語教育学専門演習aのテキストに加えて、国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校国語』(教育書出版)、国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校国語』(教育出版)  (※上記テキストは、国語科教育法Ⅱでも共通して使用)</p>																																																							
参考書・参考資料等	授業で紹介する。																																																							
学生に対する評価	課題研究の発表(70%)、授業での質問・意見等の参加状況(30%)																																																							
備 考	授業で使用する「教材」は、予め配布するので、読んでおくこと。テキストは、授業後に関連した部分を読むようにすると、理解が深まり定着する。																																																							
担当教員の 実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	教員免許を持ち、学校現場での実務経験を持つ教員による授業																																																					

授業科目名	フィールドワーク		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	鷹橋 明久、柴 市郎、 藤井 佐美		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目						
【授業の到達目標及びテーマ】								
日本文学研究と文芸創作に結びつく実地踏査をおこない、机上の学習では得られない資料収集や調査研究能力を養う。また、事前学習と事後学習をとおして、企画立案能力と報告能力を身につけながら、歴史学・民俗学・日本語学および文学等の点からも広く日本文化について学習する。今年度は島根県出雲市を中心に世界遺産と古代日本に関連する施設や場所を探訪する。								
【授業の概要】								
世界遺産(石見銀山)と古代日本の神々についての歴史的・民俗的・日本語学および文学的意義を理解するため、2泊3日で実地踏査をおこなう。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>(事前学習)</p> <p>出雲の歴史や文学等についての学習 資料調査とテーマの絞り込み 課題提出に向けての準備</p> <p>(実地踏査 フィールドワーク)</p> <p>出雲、石見銀山の訪問・探索 資料館訪問(古代出雲歴史博物館・石見銀山世界遺産センター・足立美術館)など</p> <p>(事後学習)</p> <p>事前学習からフィールドワークまでの成果と考察内容を発表し、報告書をまとめる。</p>								
テキスト	担当教員が適宜用意する							
参考書・参考資料等	担当教員が適宜用意する							
学生に対する評価	事前学習・実地踏査・事後学習における取り組み方や研究成果などから総合的に判断する。							
備 考								
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	学外でのフィールドワーク等を伴う授業					



授業科目名	デザイン史	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	吉田 拓	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン(映像メディア表現を含む)</p>							
この授業の基礎となる科目	西洋美術史1、2	次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>1. 近代デザインの史的展開を把握できる。  2. ヴィジュアル(映画・映像を含む)を通して、「見ること」から各時代の社会・文化的背景を理解し、かつデザインを理解することができる。  3. デザインに関する多様な見方の理解を深め、デザインと社会との関わりについて主体的に考えることができる。</p>							
【授業の概要】							
<p>この授業では、18世紀以降におけるデザインの歴史を概観する。「デザイン」が担う役割と意味の変遷について、それが生み出される時代の社会・文化に関する考察と映像を通じて、理解を深めることを目的とする。受講者が、いま生きている世界を自らいきいきと捉え直すことができるような、デザインに関する基礎的知識を身に付けることを目指す。</p>							
【授業計画】 講 義 内 容							
<p>第 1回 「デザイン」とは何か  第 2回 日本の現代デザイン  第 3回 産業革命とデザイン1:官立デザイン学校とロイヤル・アカデミー  第 4回 産業革命とデザイン2:ロンドン万博  第 5回 産業革命とデザイン3:とデザイン改良運動  第 6回 アーツ・アンド・クラフツ運動と世紀末芸術1:ラファエル前派  第 7回 アーツ・アンド・クラフツ運動と世紀末芸術2:ウィリアム・モリス  第 8回 アーツ・アンド・クラフツ運動と世紀末芸術3:アール・ヌーヴォー  第 9回 アーツ・アンド・クラフツ運動と世紀末芸術4:大陸における諸展開  第10回 モダニズムの展開1:ドイツ工作連盟を中心に  第11回 モダニズムの展開2:バウハウス  第12回 モダニズムの展開3:バウハウス  第13回 アール・デコ  第14回 モダニズムの展開4:デ・ステイル  第15回 モダニズムの展開5:ロシア・アヴァンギャルド  第16回 アメリカのデザイン1:フランク・ロイド・ライト  第17回 アメリカのデザイン2:インダストリアル・デザインの展開  第18回 アメリカのデザイン3:「グッド・デザイン」  第19回 アメリカのデザイン4:チャールズ・イームズ  第20回 北欧におけるモダニズム  第21回 北欧のデザイン—アルネ・ヤコブセンを中心に  第22回 英国のデザイン  第23回 イタリアのデザイン  第24回 日本における工芸とデザイン  第25回 近代日本におけるデザインの展開1:明治時代  第26回 近代日本におけるデザインの展開2:大正時代  第27回 近代日本におけるデザインの展開3:民藝運動  第28回 戦後日本におけるデザインの展開  第29回 デザインのこれから  第30回 まとめ</p>							
テキスト	「カラー版世界デザイン史」(美術出版社)						
参考書・参考資料等	「デザイン史を学ぶクリティカルワークス」(フィルムアート社) 「バウハウスってなあに?」(白水社)						
学生に対する評価	授業への参加度、小レポート(20%)、期末レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)						
備 考	<p>予習・復習のためにも『カラー版世界デザイン史』(美術出版社)を入手しておくことが好ましいが、不明な点がある場合は、自らの足で図書館や関係各所に出向いて調べる自主性を身に着けることの方がより好ましい。また、いわゆる一般的な授業形式と異なり、多くの映画作品/映像作品(難解な作品やドキュメンタリーを含む)を通して、デザインや様々なものを自分の眼で見て考え、かつ、自らの言葉による丁寧な記述を求め、受講者の積極的な参加が不可欠である。</p>						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	学芸員資格を持ち、美術館で勤務している教員による授業				

授業科目名	デザイン論	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	野崎 眞澄	担当形態	複数		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための選択科目          科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)          施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン(映像メディア表現を含む)</p>							
この授業の基礎となる科目	構成実習 総合基礎実習	次に履修が望まれる科目	デザイン実習1、情報機能論				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>デザイン分野の幅広さと内容について理解することを目標とする。さらに、自らが行うデザインについて理論的な支柱を獲得できるようにする。</p>							
【授業の概要】							
<p>オムニバス形式の授業を通して、様々な視点からデザインを捉え、仮定、考察、発想、展開などといったデザインの思考の活性を図る。</p> <p>野崎: 自己作品の造形とデザイン          世永: 視覚伝達デザインを学ぶ          林: 暮らしとデザイン          桜田: 芸術、造形とデザインの発想と考え方          伊藤: 自己作品とグラフィックデザインの解説          黒田: 映像と時間          白木: デザインの思考から学ぶこと</p>							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第1回: オリエンテーション(全教員)、オムニバス各教員の紹介、          第2回: 「美の原体験」への旅～生い立ちから北米大陸横断旅行まで(野崎)          第3回: 作家としての活動～イラストレーションから立体表現まで(野崎)          第4回: 私のデザイン(世永)          第5回: 視覚伝達デザインを学ぶ(世永)          第6回: 自然素材とデザイン(林)          第7回: 暮らしとデザイン(林)          第8回: (1) 芸術とデザイン(2) 自己の作品の解説(桜田)          第9回: (3) デザイナーの発想及び考え方を数人ピックアップして解説(桜田)          第10回: 自己のデザイン仕事の解説(伊藤)          第11回: 地域のブランディングデザインについて(伊藤)          第12回: 映像と時間(黒田)          第13回: 映像とは何だろうか?(黒田)          第14回: デザインの基本について考える～漢字デザインから見る発想法(白木)          第15回: 創造の基本について考える～創作の姿勢と方法論(白木)</p>							
テキスト	使用しない。						
参考書・参考資料等	講義中に参照すべき資料を適宜紹介する。						
学生に対する評価	授業への積極的な取り組み(60%)、レポート(40%)により評価。						
備 考	オリエンテーション時、各教員の専門領域を伝えるので、担当教員の業務領域を調べ、質問事項を持って出席すること。授業後は、毎回自分のデザイン論としてまとめておくこと。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				

授業科目名	美術解剖学		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	今井 良枝		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			
【授業の到達目標及びテーマ】								
【造形表現のための人体解剖学】								
<p>◆本講義は以下の点を主な目標とする。</p> <p>(1)人体構造の機能や美しさを各々の視点で発見する。</p> <p>(2)解剖学的知見をそれぞれの制作に応用する力をつける。</p> <p>(人体の凹凸をただ表面的になぞるのではなく、内部構造を意識しながら人体を捉えることによってよりの確で深い表現が出来る。)</p>								
【授業の概要】								
<p>◆人体を構成する「骨」や「筋」について学び、解剖学的知見をそれぞれの制作に応用する力をつける。</p> <p>人体の構造について、骨標本やスライドなどを用いて解説する。</p> <p>※受講生には作品制作を通して解剖学的知識の応用を体験してもらう。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 なぜ美術解剖学が必要なのか？</p> <p>第 2回 全身の構成</p> <p>第 3回 骨学概論</p> <p>第 4回 頭部の骨</p> <p>第 5回 脊柱</p> <p>第 6回 胸郭</p> <p>第 7回 上肢の骨格</p> <p>第 8回 下肢の骨格</p> <p>第 9回 筋学概論</p> <p>第10回 頭頸部の筋</p> <p>第11回 体幹の筋</p> <p>第12回 上肢の筋</p> <p>第13回 下肢の筋</p> <p>第14回 制作への応用</p> <p>第15回 総括</p> <p>※受講生の理解度や関心により一部内容を変更することがある。</p>								
テキスト	プリントを配布。							
参考書・参考資料等	授業の中で紹介する。参考までに「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」(監訳:坂井建雄／松村譲児)など。							
学生に対する評価	課題、授業への取り組みや意欲、授業態度などを総合的に評価する。							
備 考	<p>◆美術解剖学の授業は、ただ単に体の構造の知識を得るのではなく、人体の機能や美しさなどに感動することに大きな意味があると思っている。驚きや感動、知りたいと思う気持ちを大切にしつつ、授業に臨んで欲しい。</p> <p>※デッサン道具と色鉛筆(12色程度)を持参。</p>							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業					

授業科目名	空間造形論	履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	小野 環	担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…デザイン(映像メディア表現を含む)</p>							
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目			
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>多彩な空間表現に触れることで表現についての視野を広げ、知見を深めることで、今後の各自の創作活動における糧とする。</p>							
【授業の概要】							
<p>美術家やデザイナーにとって、表現を展開する空間や場との関係性の考察は避けて通ることができない重要な課題です。本講義では、多彩な実践の紹介を通じ、現代における空間表現の多様性や豊かさに触れ、その可能性を考察することを目標とします。</p> <p>(オムニバス方式)  小野: 美術家の視点で、現代の多彩な空間表現を読み解いていく。フィールドワークおよびワークショップも行う。(美術家)  渡邊: フィールドノートの実践を通じ、どのように空間をとらえ、記録するのかを考察。(建築家)  稲川: 自身の表現上の実践を通じ、表現と文化的バックグラウンドの関係を考察。(美術家)  松岡: 美術館学芸員の視点で、「美術」や「美術館制度」について紹介、考察。(広島市現代美術館学芸員)  山本: 美術家の視点で、自身の表現活動や、インスタレーションの持つ可能性について考察。(美術家)</p>							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第1回(小野)ガイダンス～授業概要と自身の実践について紹介  第2回(小野)個人史と美術史の交わる場所～現代美術における空間表現の展開  第3回(小野)サイトスペシフィック～空間と場所をめぐる多彩な試み  第4回(渡邊)建築家の視点 フィールドワークとフィールドノート～その意義と方法について  第5回(稲川)美術家の視点 自身の実践について紹介  第6回(小野)瀬戸内国際芸術祭ができるまで～フィールドワークガイダンスとして  第7回フィールドワーク(1) 午前 豊島 豊島美術館 島内作品  第8回フィールドワーク(2) 午後 豊島 豊島横尾館 島内作品  第9回(小野)「空間との呼吸」フィールドワークの振り返りとミニワークショップ  第10回(松岡)学芸員の視点 「路上と観察をめぐる表現史」  第11回(松岡)学芸員の視点 美術館という空間～広島市現代美術館における試み  第12回(山本)美術家の視点 自作を語る  第13回(山本)美術家の視点 表現における強さと深さ～表現とアイデンティティ  第14回(小野)「空間との呼吸」 ワークショップ  第15回(小野)「空間との呼吸」 まとめ</p>							
テキスト	特になし(講義時に資料配付)						
参考書・参考資料等							
学生に対する評価	レポート提出、授業への取り組みにより総合的に評価する。						
備 考	<p>※フィールドワークは休日に実施し、午前、午後の終日となります。アクセス可能な港までバスでの移動となりますが、それ以降の交通費および観覧料として5000円程度かかります。  ※講師の日程調整の都合で、授業の順番は変更になる場合があります。</p>						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習、フィールドワーク等を伴う授業				

授業科目名	図法及び製図		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	渡邊 義孝		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			
【授業の到達目標及びテーマ】								
演習により基礎製図、三面図、透視図等の技法技術を習得し、静物デッサン、風景画及び漫画・アニメーションの背景における遠近法の理論習得を目標とする。								
【授業の概要】								
<p>美術家及びデザイナー、漫画家に必要な図法・製図の基礎知識を修得し、今後の創作活動に生かすことを目的とする。構想した立体及び空間を図面化し、透視図法を習得し他者に伝達する技法を学ぶ。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 オリエンテーション(空間の透視図)  第2回 製図用具の使い方1(線の練習1)  第3回 製図用具の使い方2(線の練習2)  第4回 空間の製図演習1(三面図)  第5回 空間の製図演習2(三面図から1点透視図)  第6回 空間の製図演習3(三面図から2点透視図)  第7回 立体の製図演習1(三面図・ペットボトルと箱)  第8回 立体の製図演習2(三面図から2点透視図)  第9回 立体の製図演習3(2点透視図修正デッサン仕上げ)  第10回 立体・空間の表現演習(アクソメ、アイソメ)  第11回 図学演習(五角形、七角形、楕円形)  第12回 風景画1(1点透視図・学内風景スケッチ)  第13回 風景画2(1点透視図仕上げ)  第14回 風景画3(2点透視図・学内風景スケッチ)  第15回 風景画4(2点透視図仕上げ)  第16回 講評(試験)</p>								
テキスト	資料配布							
参考書・参考資料等	デザイン図学(ふくろう出版)、図学と製図(培風館)、新しい建築の製図(学芸出版社)							
学生に対する評価	提出された課題と授業への取り組み態度を総合評価する。							
備 考	配布した資料を熟読し遠近法の理論を理解する。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業					

授業科目名	金工演習		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	桜田 知文		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目(中学校・高等学校 美術)  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸</p>								
この授業の基礎となる科目	塗装法演習		次に履修が望まれる科目		木工演習			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>金属についての理解を深め、金属加工機械及び工具の使用方法を理解し、機械や手仕事で作品を制作することによって、金工作品のみならず、今後の自己の作品制作に結び付けられるよう指導する。</p>								
【授業の概要】								
<p>金属という身近ではあるが、加工ということではあまり経験のない素材について、金属材料の種類・特性・加工方法の基本的事項について学び、切断・接合・研磨・彫金・鑄造等を体験し、金工作品を制作する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 オリエンテーション(金属についての講義。安全作業及び手工具の種類と使い方の指導。)</p> <p>第 2回 金工作業の基礎訓練</p> <p>第 3回 ガス型鑄造法による作品制作(原型製作)</p> <p>第 4回 ガス型鑄造法による作品制作(原型製作、仕上げ)</p> <p>第 5回 ガス型鑄造法による作品制作(鑄型製作、前半)</p> <p>第 6回 ガス型鑄造法による作品制作(鑄型製作、後半)</p> <p>第 7回 ガス型鑄造法による作品制作(鑄込み)</p> <p>第 8回 ガス型鑄造法による作品制作(仕上げ、安全作業及び電動工具、機械の種類と使い方の指導)</p> <p>第 9回 ガス型鑄造法による作品制作(荒仕上げ)</p> <p>第10回 ガス型鑄造法による作品制作(中仕上げ)</p> <p>第11回 ガス型鑄造法による作品制作(最終仕上げ)</p> <p>第12回 彫金による作品制作1(甲丸リング制作)</p> <p>第13回 彫金による作品制作2(3連リング制作)</p> <p>第14回 彫金による作品制作3(V字リング制作)</p> <p>第15回 彫金による作品制作4(平リング制作)</p>								
テキスト	プリントを配布する。							
参考書・参考資料等	特には、指定しない。							
学生に対する評価	演習の態度(30)、提出作品(70)							
備 考	鑄造で時計を制作するので、事前にいろいろな時計を見てデザイン案を練っておくことが望ましい。毎回授業始まりに説明をしますので、遅刻をしないこと。材料費が3000円程度必要。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	写真(映像)演習		履修年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	野田 尚之		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
カメラや機材の事を理解して、意図した作品撮影ができるようになる								
【授業の概要】								
各自の作品制作をサポートする為に、写真を理解して活用できるようになる事が重要だという観点から実習に徹した授業を行います。写真自体での制作も視野に入れた実習を、尾道という特徴を活かしながら進めていきます。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回 写真が写る原理を知ろう  第2回 デジタルカメラを使ってみよう  第3回 カメラの機能を理解しよう  第4回 レンズの機能を理解しよう  第5回 外の光で撮影してみよう(雨天の場合は「第6回」と入れ替え)プリントで作品提出  第6回 照明機材を使って人物ライティング  第7回 照明機材を使って人物ライティング 各々撮影してプリントで作品提出  第8回 照明機材を使って静物ライティング  第9回 照明機材を使って静物ライティング 各々撮影してプリントで作品提出  第10回 尾道の街を撮影しよう(雨天決行)  第11回 尾道の街を撮影しよう(雨天決行)  第12回 尾道の街を撮影したプリントでディスカッション  第13回 尾道のお寺を撮影しよう(雨天決行)  第14回 尾道のお寺を撮影しよう(雨天決行)  第15回 尾道のお寺を撮影したプリントでディスカッション</p>								
テキスト	『世界一わかりやすいデジタル一眼レフカメラと写真の教科書(改訂版)』インプレス							
参考書・参考資料等	必要な書籍があれば、随時参考資料として紹介する							
学生に対する評価	撮影した写真をプリントし提出物にて評価する							
備 考	一眼レフカメラ、若しくはミラーレスカメラでマニュアル撮影できるものを用意する事。 最初の授業時にカメラの購入等に関する説明をします。 購入でなくても既に持っている方から借りる等でも対応可。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	木工演習	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	松本 寛治	担当形態	単独		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための必修科目(中学校 美術)、教員の免許状取得のための選択科目(高等学校 美術)  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸</p>							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目	総合基礎実習、デザイン実習1				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>講座による知識の伝達だけでなく、演習を通じて、習慣として技術を身につけ同時に安全行動や効率的な動きが出来るようにする。木の性質を理解し、効果的な表現法を身につける。</p>							
【授業の概要】							
<p>木工材料に対する基礎知識を学び、木工作業の基本的技法を習得する。簡単な木工作品を実際に製作し、デザイン実習時に必要な木工機械、工具の使用法を体得する。</p>							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第 1回 オリエンテーション、木の知識・木工の知識及び道具の使い方について  第 2回 木工作業の基礎訓練(木工機械の基礎作業と安全)  第 3回～第 8回  木工作品製作演習1  テーマ1 「おもちゃ」又は「モビール」  各自おもちゃをデザインして木材を用意し、その組み合わせでおもちゃを製作する。  又は、楯ベニヤ板と上記の木材でモビールを制作する。</p> <p>第 9回～第15回  木工作品製作演習2  テーマ2 「器」 たて30cm 横25cm 厚み4cm の楠材で各自の器の解釈とデザインで器の製作を行う。</p>							
テキスト	特に指定しない。						
参考書・参考資料等	使用しない。						
学生に対する評価	作品の提出						
備 考	高速の加工機や刃物を用いる作業を行いますので、非常に危険です。指導者の指示に沿って、安全作業を遵守して下さい。尚、木屑等可燃物が有りますので、実習室は禁煙です。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				



授業科目名	塗装法演習	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	桜田 知文	担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための選択科目(中学校・高等学校 美術)</p> <p>科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)</p> <p>施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸</p>							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目	木工演習 金工演習				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>演習を通じて、作品制作や額、展示台などの制作に必要な技法を身につけるとともに、安全作業の基本を身につける。</p>							
【授業の概要】							
<p>天然樹脂塗料、合成樹脂塗料、及び各種薬剤の基礎知識、使用法について、各自の製作に関連付けて述べ、工業塗装法に伝統技術を加味し比較しつつ演習する。</p> <p>本演習では、いわゆる“塗る”領域に留まらず、メッキや染め、フィルムコーティングも含めた表面処理全般について学ぶ。(オムニバス方式)</p> <p>桜田: 金工の観点から、金属素材の知識、及び塗装、染め、メッキの実務について指導する。</p> <p>松本: 家具、木工の観点から、木材、及び木質素材の知識、及び塗装、染めの実務について指導する。</p> <p>田代: 日本の伝統的塗装法・漆芸を通じて、自然の恵みをどのように生かしてきたかを学ぶ。</p>							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第 1回 オリエンテーション、表面保護&amp;化粧手段の歴史・変遷について</p> <p>・漆について</p> <p>第 2回 木材塗装演習1/7(安全作業の指導、及び道具の種類と使い方)</p> <p>・下地作り(1)</p> <p>第 3回 木材塗装演習2/7(下地作り)</p> <p>・下地作り(2)</p> <p>第 4回 木材塗装演習3/7(水性ウレタンのスプレィ塗装)</p> <p>・布着せ</p> <p>第 5回 木材塗装演習4/7(オイルステイン、阿仙・重クロム酸による着色)</p> <p>・布削り</p> <p>第 6回 木材塗装演習5/7(オイルフィニッシュ)</p> <p>・塗り(下地1)</p> <p>第 7回 木材塗装演習6/7(漆)</p> <p>・研ぎ・中塗り</p> <p>第 8回 木材塗装演習7/7(漆)</p> <p>・研ぎ・上塗り</p> <p>第 9回 金属塗装演習1/5(安全作業の指導、及び道具の種類と使い方)(下地作り)</p> <p>第10回 金属塗装演習2/5(六一〇ハップによる硫化仕上)</p> <p>第11回 金属塗装演習3/5(煮込み着色)</p> <p>第12回 塗装の実例見学</p> <p>第13回 金属塗装演習4/5(硫酸銅、アンモニアによる緑青発色)</p> <p>第14回 金属塗装演習5/5(電気メッキ)</p> <p>第15回 観察記録制作&amp;仕上予備日</p> <p>オムニバスの責任者名: 桜田 知文</p>							
テキスト	プリントを配布する。						
参考書・参考資料等	特に使用しない。						
学生に対する評価	演習作品の制作状況、授業中の質問や意見・参加状況(30)、観察記録の提出・評価成績(70)による。						
備 考	技法習得には日々の繰り返し訓練が重要。始業に遅れず、指導に沿って全課程を演習するように努めること。またその日の作業や成果は必ず記録をとること。材料費が3000円程度必要。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	壁画技法演習		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	菅原 智子		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
モザイク制作を通して石材の小片を使った表現効果を認識し、モザイク技法の知識を深め、更に自身の制作に於ける発展に繋がるよう考察を進める。								
【授業の概要】								
古代より伝わる技法である大理石モザイクの基本的な制作技術を習得し、天然の色彩を持つ石材の素材としての特性を学ぶ。モザイク作品を1点完成させる。 履修者全員でサテライトスタジオ外壁用のモザイクを制作し、設置する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 モザイク画概説 支持体作成</p> <p>第 2回 下地塗り 石材の準備</p> <p>第 3回 道具と材料の説明 石割り 個人制作用下絵制作</p> <p>第 4回 制作:個人制作用下絵制作続き 転写 制作(石の固着)開始</p> <p>第 5回 制作:全体の配色を石材の色と照らし合わせ、先ず背景などから始めて材料に慣れる</p> <p>第 6回 制作:徐々に主要部分に入る.石の大きさや目地の流れを考慮し制作を進める</p> <p>第 7回 制作:全体の調和を確認しながら進める</p> <p>第 8回 制作:作品完成</p> <p>第 9回 サテライトスタジオ外壁用下絵制作 転写</p> <p>第10回 外壁用モザイク制作(石の固着)開始</p> <p>第11回 制作:全体の配色を考えて進める</p> <p>第12回 制作:石の大きさや目地の流れを考慮し制作を進める</p> <p>第13回 制作:全体の調和を確認しながら進め、完成させる</p> <p>第14回 外壁用モザイク設置作業</p> <p>第15回 外壁作業続き 講評 採点 片づけ</p>								
テキスト	プリント配布							
参考書・参考資料等								
学生に対する評価	モザイク画作品及び制作状況(70%) 授業参加度(30%)							
備 考	モザイク画作品に関する情報収集							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	テンペラ画技法演習		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	赤木 範陸		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>絵画は物理的には支持体と絵の具により成り立ち、絵の具は顔料と結合材の違いにより、異なる視覚効果を付与されることになる。この絵の具が重層的に塗り重ねられた際の物理的、視覚的特質を理解し、各自が自らの絵画制作に応用する力を習得できることが望ましい。</p>								
【授業の概要】								
<p>ヨーロッパ中世末期に成立した古典絵画技法から絵画の物理的構造を理解し、顔料が如何なるメディウムで溶かれ、絵の具として用いられたかを知り、どのように描かれたかをプロセスによる制作を通して探ることで、材料と技法が生み出している重層構造の視覚的効果を経験し、絵画理解を深めることを目的とする。</p> <p>油彩画以前の絵画技法であるテンペラ技法演習では、エマルジョンキャンヴァスを自製し、テンペラで絵の具を練り、モチーフを観察しながら制作する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1 回 オリエンテーション後に、F15号の木枠に生麻布を張り、前膠塗り・乾燥。</p> <p>第 2 回 エマルジョン地塗り溶液を作成し、前日に前膠塗りを施した生麻布に地塗りをする。</p> <p>第 3 回 エマルジョンキャンヴァスに素描(木炭、鉛筆等)、卵テンペラメディウム作製、及び単色(パントシエンナ等)のテンペラ絵の具による下層描き。</p> <p>第 4 回 卵テンペラの下層描きを完成。手で触れて湿っていなければ着色樹脂によるインプリマトゥーラを施す。</p> <p>第 5 回 白色テンペラ絵の具による白色モデリング(明部のみを描く)。</p> <p>第 6 回 白色モデリングの完成。白色テンペラ絵の具による薄白掛け、及びラズール層(ここでは着色樹脂を使う)を施す。</p> <p>第 7 回 テンペラ絵の具による上層描き(ローカルトーンの描き入れ)。</p> <p>第 8 回 テンペラ絵の具による上層描き(ローカルトーンの描き入れ)。</p> <p>第 9 回 テンペラ絵の具による上層描き(ディテール描き入れ)。</p> <p>第10回 午前中まで制作・完成させ午後には講評及び採点。</p>								
テキスト	オリジナルテキスト							
参考書・参考資料等	マックス・デルナー「絵画技術体系」美術出版社							
学生に対する評価	出席率、制作態度、プレゼンテーション、作品評価							
備 考	テキストは事前に必ず読み疑問点を把握しておく事。授業で何かをしてくれる事を待っているだけでは何も得られない。自ら深究する態度が必要である。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	版画制作演習		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	高垣 秀光		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目				
【授業の到達目標及びテーマ】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・独りよがりの表現に陥らないよう、プロダクティブで社会性を伴う形に完成させていく表現の過程を重視。</li> <li>・自分のアイデアを仲間と共により良いものに改善し、ブラッシュアップするディスカッション過程を重視。</li> <li>・ひとつの表現のために扱う素材を多角的に観察できる視野を持てることを目標にする。</li> </ul>								
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・版が立体であるという構造を理解し、版となる素材とそれを扱う様々な技法を体験しながら、どのように平面のイメージに展開させるかを学ぶ。</li> <li>・版が立体であることをより理解できるよう、凸版(木版)凹版(銅板)孔版(シルクスクリーン)を主に用い版による平面表現の可能性を探る。</li> <li>・ワークショップ・デモンストレーション形式で様々な版の表現を理解する。</li> <li>・版の持つ複数性を理解し、様々な可能性に展開させる方法を演習する。</li> </ul>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 版画概論(版画の歴史と各版種の原理)／木版画のアイデアを持参  第 2回 [多色多版の水性木版画制作]木版画の摺りのデモンストレーション、下絵の制作、版分けの計画  第 3回 見当板とトレーシングペーパーを使って、各版木に図柄を写す  第 4回 彫刻刀の説明／彫り  第 5回 彫り  第 6回 試摺りと版の修正、色や摺り方を変えながら試摺りを繰り返す  第 7回 本摺り  第 8回 [シルクスクリーンによる2色刷り名刺制作]シルクスクリーンの原理の確認、下絵の制作  第 9回 ポジフィルム制作、感光機による露光制版する  第10回 2色の色の組み合わせを変えながら刷る。刷り終えた版を落版する  第11回 [銅版画の制作]ドライポイント、ソフトグランドエッチング、ハードグランドエッチングの技法の説明  第12回 三つの技法のグループに分かれて技法を確認し、下絵の制作  第13回 銅版にグランドを塗り(ドライポイントは不要)下絵を銅版に移し、版の制作を始める  第14回 描画、エアブラシ、腐食  第15回 試刷りと版の修正、加筆を繰り返す。黒以外の色も試してみる  第16回 本刷り、作品提出／講評、ディスカッション</p>								
テキスト	オリジナルテキスト使用・蔵書から随時抜粋しプリント配布							
参考書・参考資料等	蔵書・参考作品を随時利用・紹介							
学生に対する評価	・制作への取り組み方・ディスカッションへの参加度・作品の完成度							
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画集やインターネット情報による版画情報の収集と作品鑑賞に努める</li> <li>・自分の得た情報をファイル化。</li> <li>・定員を前期、後期それぞれ15名程度とする。履修希望者は「抽選登録」をすること。履修希望者が大きく定員を超える場合は、短期留学生、高学年の学生の履修を優先的に許可することがある。</li> <li>・材料費として実習費7,000円程度が必要。</li> </ul>							
担当教員の業務経験の有無	○	業務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	版画制作演習		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	筆塚 稔尚		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・独りよがりの表現に陥らないよう、プロダクティブで社会性を伴う形に完成させていく表現の過程を重視。</li> <li>・自分のアイデアを仲間と共により良いものに改善し、ブラッシュアップするディスカッション過程を重視。</li> <li>・ひとつの表現のために扱う素材を多角的に観察できる視野を持てることを目標にする。</li> </ul>								
【授業の概要】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・版が立体であるという構造を理解し、版となる素材とそれを扱う様々な技法を体験しながら、どのように平面のイメージに展開させるかを学ぶ。</li> <li>・版が立体であることをより理解できるよう、凸版(木版)凹版(銅板)孔版(シルクスクリーン)を主に用い版による平面表現の可能性を探る。</li> <li>・ワークショップ・デモンストレーション形式で様々な版の表現を理解する。</li> <li>・版の持つ複数性を理解し、様々な可能性に展開させる方法を演習する。</li> </ul>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回 木版画デモンストレーション・下絵制作  第 2回 制作1-彫を理解する  第 3回 制作2-刷り-いろいろな刷り方を理解する  第 4回 制作3-紙のいろいろ-紙の特徴を学ぶ  第 5回 ディスカッション形式による中間講評  第 6回 制作4-版を展開させる(色・形・組み合わせを変えてみる)  第 7回 制作5-本刷り(完成刷り)  第 8回 版のいろいろ デモンストレーション 銅版画・石版画  第 9回 シルクスクリーンデモンストレーション・下絵制作明  第10回 制作6-版の構造を理解する  第11回 制作7-下絵の作り方焼き付け方のいろいろ  第12回 制作8-刷のいろいろ  第13回 ディスカッション形式による中間講評  第14回 制作9-本刷り(完成刷り)  第15回 講評 作品提出 総合ディスカッション</p>								
テキスト	オリジナルテキスト使用・蔵書から随時抜粋しプリント配布							
参考書・参考資料等	蔵書・参考作品を随時利用・紹介							
学生に対する評価	・制作への取り組み方・ディスカッションへの参加度・作品の完成度							
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画集やインターネット情報による版画情報の収集と作品鑑賞に努める</li> <li>・自分の得た情報をファイル化。</li> <li>・定員を前期、後期それぞれ15名程度とする。履修希望者は「抽選登録」をすること。履修希望者が大きく定員を超える場合は、短期留学生、高学年の学生の履修を優先的に許可することがある。</li> <li>・材料費として実習費7,000円程度が必要。</li> </ul>							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	デッサン基礎実習	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	矢野 哲也、中村 譲	担当形態	複数		
【科目の位置付け】							
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…絵画(映像メディア表現を含む)</p>							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目		油画実習1	デザイン実習1	日本画実習1	
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>志望するコースにつながる基礎力を身につける。</p>							
【授業の概要】							
<p>表現の基礎となる観察力や造形力を養う。</p>							
【授業計画】							
<p style="text-align: center;">講 義 内 容</p> <p>第1回 共通課題「樹根/ガイダンス」  第2回 共通課題「樹根/視点を探る」  第3回 共通課題「樹根/構成を考える」  第4回 共通課題「樹根/形を探る」  第5回 共通課題「樹根/全体の構造を理解する」  第6回 共通課題「樹根/動きを捉える」  第7回 共通課題「樹根/量感を捉える」  第8回 共通課題「樹根/中間講評」  第9回 共通課題「樹根/振り返り」  第10回 共通課題「樹根/全体のバランスを見直す」  第11回 共通課題「樹根/スケール感を意識する」  第12回 共通課題「樹根/描写と省略の工夫」  第13回 共通課題「樹根/空間表現の工夫」  第14回 共通課題「樹根/質感表現の工夫」  第15回 共通課題「樹根/講評」</p> <p>◆第16回以降は「日本画」「油画」「デザイン」の選択課題</p> <p>日本画  第16回 「静物デッサン(鉛筆)/構図を考える」  第17回 「静物デッサン(鉛筆)/空間、質感、物の形を把握する」  第18回 「静物デッサン(鉛筆)/全体/バランスを掴み描き込む」  第19回 「静物デッサン(鉛筆)/完成、講評」  第20回 「剥製デッサン(鉛筆)/プロポーシオンを掴む」  第21回 「剥製デッサン(鉛筆)/質感を表現する」  第22回 「剥製デッサン(鉛筆)/描き込みによるリアル感」  第23回 「剥製デッサン(鉛筆)/完成、講評」  第24回 「古典模写/鳥獣戯画絵巻について」  第25回 「古典模写/画材の把握、準備」  第26回 「古典模写/場面の選択、構図の決定」  第27回 「古典模写/線の違いを把握する」  第28回 「古典模写/墨の濃さの違いを把握する」  第29回 「古典模写/全体の雰囲気掴む」  第30回 「古典模写/全体の微調整、学生同士で比較」</p> <p>油画  第16回 「樹木(屋外)/視点を探る」  第17回 「樹木(屋外)/法則を探る」  第18回 「樹木(屋外)/骨格を理解する」  第19回 「樹木(屋外)/スケール感を意識する」  第20回 「樹木(屋外)/距離や奥行きを探る」</p>							

第21回 「樹木(屋外)/講評」 第22回 「人体ドローイング/」描画素材の工夫」 第23回 「人体ドローイング/動き、構造を捉える」 第24回 「人体ドローイング/講評」 第25回 「ヌード/人体のバランスを考える」 第26回 「ヌード/全体の動きを掴む」 第27回 「ヌード/人体と空間の関係を考える」 第28回 「ヌード/特徴を捉える」 第29回 「ヌード/質感表現の工夫」 第30回 「ヌード/講評」			
デザイン 第16回 「おどろき盤/オリエンテーション」 第17回 「おどろき盤/映像メディアの歴史」 第18回 「おどろき盤/おどろき盤の動きの仕組み」 第19回 「おどろき盤/テーマ1の制作(アイデア出し)」 第20回 「おどろき盤/テーマ1の制作(動きの試作)」 第21回 「おどろき盤/テーマ1の制作(下書き)」 第22回 「おどろき盤/テーマ1の制作(着彩)」 第23回 「おどろき盤/テーマ1の制作(仕上げ)」 第24回 「おどろき盤/テーマ2の制作(アイデア出し)」 第25回 「おどろき盤/テーマ2の制作(動きの試作)」 第26回 「おどろき盤/テーマ2の制作(下書き)」 第27回 「おどろき盤/テーマ2の制作(着彩)」 第28回 「おどろき盤/テーマ2の制作(仕上げ)」 第29回 「おどろき盤/作品提出、撮影」 第30回 「おどろき盤/講評」			
テキスト	特に使用しない		
参考書・参考資料等	特に使用しない		
学生に対する評価	実習の取り組みおよび提出作品により評価する。		
備 考	課題の目的に沿って研究、制作を行う。課題終了後も造形ついてさらに研究を進める。		
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習

授業科目名	構成実習	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、吉原 慎介、 矢野 哲也	担当形態	複数		
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目	デッサン基礎実習、彫刻、総合基礎実習	次に履修が望まれる科目		日本画実習1、油画実習1、デザイン実習1			
【授業の到達目標及びテーマ】							
それぞれの課題テーマに則した作品を制作しながら、多様な芸術作品を学び理解を深め、独自の表現への展開を目指す。							
【授業の概要】							
身近な環境空間に存在するものを、造形的に再構成することにより構成の基礎力を養う。							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第 1回 共通課題「自画像／スケッチを重ねる」</p> <p>第 2回 共通課題「自画像／資料収集」</p> <p>第 3回 共通課題「自画像／構成を考える」</p> <p>第 4回 共通課題「自画像／表現手法の工夫」</p> <p>第 5回 共通課題「自画像／実制作」</p> <p>第 6回 共通課題「自画像／講評」</p> <p>◆第7回以降は「日本画」「油画」「デザイン」の選択課題</p> <p>日本画</p> <p>第 7回 「立体構成(身近なもの)／ガイダンス」</p> <p>第 8回 「立体構成(身近なもの)／エスキース、形態のイメージ」</p> <p>第 9回 「立体構成(身近なもの)／エスキース、大きさのイメージ」</p> <p>第10回 「立体構成(身近なもの)／エスキース、材料による質感のイメージ」</p> <p>第11回 「立体構成(身近なもの)／作成、土台や骨組み」</p> <p>第12回 「立体構成(身近なもの)／作成、パーツやボリューム付け等」</p> <p>第13回 「立体構成(身近なもの)／作成、組立と全体感」</p> <p>第14回 「立体構成(身近なもの)／完成に向けた調整」</p> <p>第15回 「立体構成(身近なもの)／講評」</p> <p>第16回 「植物制作(百合)／ガイダンス」</p> <p>第17回 「植物制作(百合)／デッサンとエスキース、モチーフの配置」</p> <p>第18回 「植物制作(百合)／デッサンとエスキース、画面の配色」</p> <p>第19回 「植物制作(百合)／デッサン完成」</p> <p>第20回 「植物制作(百合)／画面構成の決定」</p> <p>第21回 「植物制作(百合)／デッサンから線や調子の抽出」</p> <p>第22回 「植物制作(百合)／本紙に骨描き」</p> <p>第23回 「植物制作(百合)／下塗りとして効果的な彩色」</p> <p>第24回 「植物制作(百合)／描込み、質感の意識」</p> <p>第25回 「植物制作(百合)／描込み、配色の意識」</p> <p>第26回 「植物制作(百合)／描込み、部分の完成度」</p> <p>第27回 「植物制作(百合)／描込み、全体バランスの意識」</p> <p>第28回 「植物制作(百合)／描込み、更にイメージに近づける」</p> <p>第29回 「植物制作(百合)／描込み、完成に向けた調整、完成」</p> <p>第30回 「植物制作(百合)／講評」</p> <p>油画</p> <p>第 7回 「部屋からの発見／ガイダンス」</p> <p>第 8回 「部屋からの発見／視点を探る」</p> <p>第 9回 「部屋からの発見／物の観察」</p> <p>第10回 「部屋からの発見／空間の観察」</p> <p>第11回 「部屋からの発見／現象の観察」</p> <p>第12回 「部屋からの発見／講評」</p>							



第13回	「視点／ガイダンス」
第14回	「視点／取材」
第15回	「視点／モチーフ取集」
第16回	「視点／興味を探る」
第17回	「視点／視点を探る」
第18回	「視点／切り取り方の工夫」
第19回	「視点／作品を見直す」
第20回	「視点／講評」
第21回	「友人を描く／ガイダンス」
第22回	「友人を描く／制作1 視点を探る」
第23回	「友人を描く／制作1 描く」
第24回	「友人を描く／制作2 視点を探る」
第25回	「友人を描く／制作2 描く」
第26回	「友人を描く／制作3 視点を探る」
第27回	「友人を描く／制作3 描く」
第28回	「友人を描く／制作4 視点を探る」
第29回	「友人を描く／制作4 描く」
第30回	「友人を描く／講評」
デザイン	
第 7回	「シルエット構成／古典から広くシルエットを学ぶ」
第 8回	「シルエット構成／構想を練る-ラフ制作」
第 9回	「シルエット構成／ラフ制作から-表現の検証」
第10回	「シルエット構成／作品制作」
第11回	「シルエット構成／作品プレゼンテーションと講評」
第12回	「ロゴ／オリエンテーション、実例の紹介・リサーチ」
第13回	「ロゴ／アイデア出し、ラフ案制作」
第14回	「ロゴ／本制作-コンセプトや造形の検討」
第15回	「ロゴ／本制作-彩色やレイアウトの検討」
第16回	「ロゴ／作品プレゼンテーションと講評」
第17回	「ランプシェード／オリエンテーション・照明について・素材について」
第18回	「ランプシェード／アイデア出し・エスキース制作」
第19回	「ランプシェード／実制作」
第20回	「ランプシェード／実制作・効果チェック」
第21回	「ランプシェード／実制作・修正」
第22回	「ランプシェード／実制作・最終チェック」
第23回	「ランプシェード／作品プレゼンテーションと講評」
第24回	「ブック制作／オリエンテーション、1年間で制作した作品の撮影と編集素材の収集」
第25回	「ブック制作／編集素材をもとに全体の台割りと編集計画の作成」
第26回	「ブック制作／台割りと編集計画の修正」
第27回	「ブック制作／修正した編集計画をもとにプロトタイプ制作」
第28回	「ブック制作／プロトタイプの検証と修正」
第29回	「ブック制作／修正したプロトタイプをもとに作品制作」
第30回	「ブック制作／作品プレゼンテーションと講評」
テキスト	様々な芸術作品の参考資料を必要に応じて提示する。
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	実習の取り組み姿勢と、提出作品による造形力、表現技術の到達度を点数化し評価する。
備 考	制作の為の準備をしておくこと。
担当教員の実務経験の有無	○ 実務経験の具体的内容 創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習

授業科目名	彫刻	履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	4																																																																																				
科目コード		担当教員名	秋山 隆	担当形態	単独																																																																																						
【科目の位置付け】																																																																																											
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・彫刻</p>																																																																																											
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目																																																																																									
【授業の到達目標及びテーマ】																																																																																											
<p>塑造、木彫制作を通して、対象物の構造や動きを捉える観察力と基礎的な造形力を養い、基本的技術を段階的に身に付ける。</p>																																																																																											
【授業の概要】																																																																																											
<p>【塑造】－胸像の制作  はじめにクロッキー及びデッサンを行い、制作する部位を様々な方向から観察し、構造・奥行き・動き・量を捉え、次に、クロッキーを参考に心棒を組み、粘土づけをしていく。粘土づけの際は対象をよく観察し、表面ばかりを追うのではなく、内部構造を意識した捉え方を身に付ける。</p> <p>【木彫】－乾物を彫る(模刻)  各自が気に入った乾物を選定し、制作する対象を様々な方向から観察しながらデッサンをおこなう。木材(樟 板材)の特性・道具の使用方法を理解しながら彫り出す。  授業計画1回分を同一週内で実施する。</p>																																																																																											
【授業計画】																																																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>講</th> <th>義</th> <th>内</th> <th>容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1回:</td><td>【塑造】課題説明、クロッキー</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第2回:</td><td>【塑造】素描、クロッキー、心棒説明</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第3回:</td><td>【塑造】心棒組み</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第4回:</td><td>【塑造】粘土練り、粘土(特性)についての説明</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第5回:</td><td>【塑造】粘土粗付け(素材に慣れる)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第6回:</td><td>【塑造】粘土粗付け(量を意識)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第7回:</td><td>【塑造】制作 粘土付け(頭部の対称性)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第8回:</td><td>【塑造】制作 粘土付け(各部の位置と比率の確認)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第9回:</td><td>【塑造】制作 粘土付け(前後バランス、額と後頭部)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第10回:</td><td>【塑造】制作 粘土付け(左右バランス、頬、耳)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第11回:</td><td>【塑造】制作 粘土付け(バランス確認、仕上げ)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第12回:</td><td>【塑造】講評</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第13回:</td><td>【木彫】課題説明、デッサン</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第14回:</td><td>【木彫】道具説明、製材</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第15回:</td><td>【木彫】制作 木取り</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第16回:</td><td>【木彫】制作 面取り(荒取り)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第17回:</td><td>【木彫】制作 小造り</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第18回:</td><td>【木彫】制作 仕上げ(細部表現)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第19回:</td><td>【木彫】仕上げ(全体のバランス確認、仕上げ)</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> <tr><td>第20回:</td><td>【木彫】講評</td><td>(360分=4時限)</td><td></td></tr> </tbody> </table>								講	義	内	容	第1回:	【塑造】課題説明、クロッキー	(360分=4時限)		第2回:	【塑造】素描、クロッキー、心棒説明	(360分=4時限)		第3回:	【塑造】心棒組み	(360分=4時限)		第4回:	【塑造】粘土練り、粘土(特性)についての説明	(360分=4時限)		第5回:	【塑造】粘土粗付け(素材に慣れる)	(360分=4時限)		第6回:	【塑造】粘土粗付け(量を意識)	(360分=4時限)		第7回:	【塑造】制作 粘土付け(頭部の対称性)	(360分=4時限)		第8回:	【塑造】制作 粘土付け(各部の位置と比率の確認)	(360分=4時限)		第9回:	【塑造】制作 粘土付け(前後バランス、額と後頭部)	(360分=4時限)		第10回:	【塑造】制作 粘土付け(左右バランス、頬、耳)	(360分=4時限)		第11回:	【塑造】制作 粘土付け(バランス確認、仕上げ)	(360分=4時限)		第12回:	【塑造】講評	(360分=4時限)		第13回:	【木彫】課題説明、デッサン	(360分=4時限)		第14回:	【木彫】道具説明、製材	(360分=4時限)		第15回:	【木彫】制作 木取り	(360分=4時限)		第16回:	【木彫】制作 面取り(荒取り)	(360分=4時限)		第17回:	【木彫】制作 小造り	(360分=4時限)		第18回:	【木彫】制作 仕上げ(細部表現)	(360分=4時限)		第19回:	【木彫】仕上げ(全体のバランス確認、仕上げ)	(360分=4時限)		第20回:	【木彫】講評	(360分=4時限)	
講	義	内	容																																																																																								
第1回:	【塑造】課題説明、クロッキー	(360分=4時限)																																																																																									
第2回:	【塑造】素描、クロッキー、心棒説明	(360分=4時限)																																																																																									
第3回:	【塑造】心棒組み	(360分=4時限)																																																																																									
第4回:	【塑造】粘土練り、粘土(特性)についての説明	(360分=4時限)																																																																																									
第5回:	【塑造】粘土粗付け(素材に慣れる)	(360分=4時限)																																																																																									
第6回:	【塑造】粘土粗付け(量を意識)	(360分=4時限)																																																																																									
第7回:	【塑造】制作 粘土付け(頭部の対称性)	(360分=4時限)																																																																																									
第8回:	【塑造】制作 粘土付け(各部の位置と比率の確認)	(360分=4時限)																																																																																									
第9回:	【塑造】制作 粘土付け(前後バランス、額と後頭部)	(360分=4時限)																																																																																									
第10回:	【塑造】制作 粘土付け(左右バランス、頬、耳)	(360分=4時限)																																																																																									
第11回:	【塑造】制作 粘土付け(バランス確認、仕上げ)	(360分=4時限)																																																																																									
第12回:	【塑造】講評	(360分=4時限)																																																																																									
第13回:	【木彫】課題説明、デッサン	(360分=4時限)																																																																																									
第14回:	【木彫】道具説明、製材	(360分=4時限)																																																																																									
第15回:	【木彫】制作 木取り	(360分=4時限)																																																																																									
第16回:	【木彫】制作 面取り(荒取り)	(360分=4時限)																																																																																									
第17回:	【木彫】制作 小造り	(360分=4時限)																																																																																									
第18回:	【木彫】制作 仕上げ(細部表現)	(360分=4時限)																																																																																									
第19回:	【木彫】仕上げ(全体のバランス確認、仕上げ)	(360分=4時限)																																																																																									
第20回:	【木彫】講評	(360分=4時限)																																																																																									
テキスト	使用しない。																																																																																										
参考書・参考資料等	画集等必要に応じて掲示する。またはプリントを配布する。																																																																																										
学生に対する評価	実習中の取り組み姿勢(30%)、授業内容の理解度(70%)などを基本とし、提出作品の内容で評価します。																																																																																										
備考	参考書に出てくる、作品、作家、素材、技法等自主的に勉強し質問する事。																																																																																										
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習																																																																																								

授業科目名	総合基礎実習		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	吉原 慎介、矢野 哲也、野崎 真澄	担当形態	複数			
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目	油画実習1 日本画実習1 デザイン実習1			
【授業の到達目標及びテーマ】								
各コースの特色を理解する。 自分の志望コースを明確にする。								
【授業の概要】								
油画、日本画、デザインの各課題を履修し、自己の資質と方向性を吟味する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第1回「油画:人物油彩/ガイダンス」 第2回「油画:人物油彩/ドローイング」 第3回「油画:人物油彩/構成を考える」 第4回「油画:人物油彩/人体のバランスを考える」 第5回「油画:人物油彩/動きを捉える」 第6回「油画:人物油彩/量感を捉える」 第7回「油画:人物油彩/全体のバランスを見直す」 第8回「油画:人物油彩/人体と空間の関係を考える」 第9回「油画:人物油彩/特徴を捉える」 第10回「油画:人物油彩/講評」 第11回「日本画:自由モチーフによる静物制作/自由表現を心がけたエスキース作成」 第12回「日本画:自由モチーフによる静物制作/モチーフのデッサン、本紙張込み説明」 第13回「日本画:自由モチーフによる静物制作/デッサンを基に画面構成」 第14回「日本画:自由モチーフによる静物制作/日本画材料の説明」 第15回「日本画:自由モチーフによる静物制作/墨を用いた骨描き、下描き」 第16回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、地塗り、下塗りを中心に」 第17回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、本塗り、実際の彩色を中心に」 第18回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、更にイメージに近づける」 第19回「日本画:自由モチーフによる静物制作/描込み、仕上げに向けた調整、完成」 第20回「日本画:自由モチーフによる静物制作/講評」 第21回「デザイン:自分のマーク/古典から広くマークを学ぶ」 第22回「デザイン:自分のマーク/自身の特徴を考える」 第23回「デザイン:自分のマーク/自身の特徴をカタチにする」 第24回「デザイン:自分のマーク/テーマを決定する」 第25回「デザイン:自分のマーク/構想を練るラフ制作」 第26回「デザイン:自分のマーク/バリエーションの検討」 第27回「デザイン:自分のマーク/デザイン最終形の検討」 第28回「デザイン:自分のマーク/作品制作」 第29回「デザイン:自分のマーク/作品の検証」 第30回「デザイン:自分のマーク/作品のプレゼンテーション」								
テキスト	特に使用しない							
参考書・参考資料等	特に使用しない							
学生に対する評価	実習の取り組みおよび提出作品により評価する。							
備 考	課題の目的に沿って研究、制作を行う。課題終了後も造形についてさらに研究を進める。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	日本画実習1		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	12
科目コード		担当教員名	吉原 慎介、中村 譲		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	総合基礎実習、構成実習、デッサン基礎実習、彫刻実習		次に履修が望まれる科目		日本画実習2			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>日本画の基礎となる写生の必要性を、人体デッサンや風景スケッチ、動物写生等を通して理解する。また箔や裏打ちの材料研究を行い、日本画の基礎的な技術と表現方法を習得することを目指す。</p>								
【授業の概要】								
<p>前期は静物、動物、風景のテーマで制作を行う。後期は自画像(絹本)で、日本画の素材と技術を体験する。コンクール形式の風景制作課題では自身の到達度を相対評価する。年度末には初めての自由課題制作を行い、2、3年生の合同講評会に参加する。授業計画1回分を同一週内で実施する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回:【静物制作】モチーフセット、エスキースによる構図検討(540分=6時限)  第2回:【静物制作】デッサン、小下図、大下図、彩色開始(540分=6時限)  第3回:【静物制作】描き込み(540分=6時限)  第4回:【静物制作】描き込み、仕上げ、講評(540分=6時限)  第5回:【動物スケッチ】クロッキー(540分=6時限)  第6回:【動物スケッチ】デッサン/風景スケッチ(540分=6時限)  第7回:【人体デッサン】クロッキー、観察による素描、提出(540分=6時限)  第8回:【風景制作Ⅰ】取材、スケッチ、小下図、大下図(540分=6時限)  第9回:【風景制作Ⅰ】画材準備、骨描き、下塗り(540分=6時限)  第10回:【風景制作Ⅰ】描き込み(540分=6時限)  第11回:【風景制作Ⅰ】仕上げ、講評(540分=6時限)  第12回:【動物制作】スケッチ、エスキース、小下図、大下図(540分=6時限)  第13回:【動物制作】骨描き、下塗り(540分=6時限)  第14回:【動物制作】描き込み(540分=6時限)  第15回:【動物制作】描き込み、仕上げ、講評(540分=6時限)  第16回:【自画像(絹本)制作】課題説明、自画像デッサン(540分=6時限)  第17回:【自画像(絹本)制作】工程説明、下準備、骨描き、描き込み(540分=6時限)  第18回:【自画像(絹本)制作】描き込み、仕上げ、講評(540分=6時限)  第19回:【人体デッサン/裏打ち講義】(540分=6時限)  第20回:【風景制作Ⅱ】(クラス内コンクール)50号 風景制作Ⅰからの展開、取材、準備等(540分=6時限)  第21回:【風景制作Ⅱ】骨描き、(彩色)序盤、下塗り等(540分=6時限)  第22回:【風景制作Ⅱ】(彩色)中盤、描き込み(540分=6時限)  第23回:【風景制作Ⅱ】(彩色)終盤、仕上げ、順位公表、講評(540分=6時限)  第24回:【人物制作Ⅰ】デッサン、小下図、大下図(540分=6時限)  第25回:【人物制作Ⅰ/箔講義】下塗り、描き込み(540分=6時限)  第26回:【人物制作Ⅰ】描き込み(540分=6時限)  第27回:【人物制作Ⅰ】仕上げ、講評(540分=6時限)  第28回:【自由制作】取材、表現の素材選択、準備等(540分=6時限)  第29回:【自由制作】下塗り、描き込み(540分=6時限)  第30回:【自由制作】仕上げ 2・3年生合同講評会(540分=6時限)  ※《動物スケッチ》は5月中旬から下旬に福山動物園にて、また《風景スケッチ》では5月中旬から下旬に一泊二日でスケッチ旅行(行き先/広島・岡山県内)を実施する予定。</p>								
テキスト	使用しない。							
参考書・参考資料等	画集などの資料を必要に応じて提示する。							
学生に対する評価	実習への取り組み(30%)と、提出作品による表現技術の達成度(70%)を総合的に評価する。							
備 考	積極的に取材や作品鑑賞をすること。							
担当教員の業務経験の有無	○	業務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	油画実習1		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	12				
科目コード		担当教員名	矢野 哲也、小野 環、稲川 豊、橋野 仁史		担当形態	複数						
【科目の位置付け】												
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…絵画(映像メディア表現を含む)</p>												
この授業の基礎となる科目	デッサン基礎実習 構成実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目			油画実習2						
【授業の到達目標及びテーマ】												
<p>実習を通して作品制作の基礎体力をつける。  作品と制作過程について振り返るとともに、自己の特性を探ることに結びつける。</p>												
【授業の概要】												
<p>人体、静物、風景等身近なものをモチーフとして描き、油彩を中心に様々な描画材料での表現を通じて自分の感覚や体質を探る。  また、下地実習を通して描画材料や基底材についての理解を深める。</p>												
【授業計画】												
<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 30%;">講</td> <td style="text-align: center; width: 30%;">義</td> <td style="text-align: center; width: 30%;">内</td> <td style="text-align: center; width: 10%;">容</td> </tr> </table> <p>第 1回 風景オイルスケッチ…大学周辺、尾道市立美術館周辺  第 2回 風景オイルスケッチ…サテライトスタジオ  第 3回 風景オイルスケッチ …大久野島、福山動物園、糸崎、岩子島  第 4回 風景オイルスケッチ…鞆の浦、松永  第 5回 風景オイルスケッチ・講評  第 6回 下地実習・油絵具会社による材料に関するレクチャー・ポートフォリオ指導  第 7回 人体ドローイング・講評  第 8回 人体油彩1「ヌード」…ドローイング、構想  第 9回 人体油彩1「ヌード」…構図、色彩、表現手法についての考察  第10回 人体油彩1「ヌード」…油彩制作  第11回 人体油彩1「ヌード」…講評  第12回 人体油彩2「ヌード・コスチューム」…ドローイング、構想  第13回 人体油彩2「ヌード・コスチューム」…構図、色彩、表現手法についての考察  第14回 人体油彩2「ヌード・コスチューム」…油彩制作  第15回 人体油彩2「ヌード・コスチューム」…講評  第16回 オムニバス実習1「稲川:制作せずに実践するを考える」…レクチャー、リサーチ  第17回 オムニバス実習1「稲川:制作せずに実践するを考える」…グループワーク、実践  第18回 オムニバス実習4「小野:地図—自分のいる場所—」…レクチャー、グループワーク  第19回 オムニバス実習4「小野:地図—自分のいる場所—」…リサーチ、制作  第20回 オムニバス実習3「橋野:制作過程を考える」…レクチャー  第21回 オムニバス実習3「橋野:制作過程を考える」…制作、作品記録、ファイル作成  第22回 オムニバス実習2「矢野:静物油彩」…ガイダンス  第23回 オムニバス実習2「矢野:静物油彩」…制作  第24回 静物油彩「大型モチーフ」…ドローイング、構想  第25回 静物油彩「大型モチーフ」…構図、色彩、表現手法についての考察  第26回 静物油彩「大型モチーフ」…油彩制作  第27回 静物油彩「大型モチーフ」…講評  第28回 ポートフォリオ作成…レクチャー  第29回 ポートフォリオ作成…グループディスカッション  第30回 ポートフォリオ作成…まとめ</p>									講	義	内	容
講	義	内	容									
テキスト	特に使用しない											
参考書・参考資料等	随時、実習課題に関連した資料を配布する。											
学生に対する評価	「実習への取り組み・意欲」(40%)、「提出作品」(60%)により総合的に評価する。											
備考	課題の目的に沿って研究、制作を行う。課題終了後も造形についてさらに研究を進める。											
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習									

授業科目名	デザイン実習1		履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	12
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、桜田 知文、 世永 逸彦、黒田 教裕、 伊藤 麻子		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…デザイン(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	1年次実習		次に履修が望まれる科目		デザイン実習2			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>それぞれの専門分野に対する理解を深めながら、作品を制作するための基礎的な技術を習得する。あわせて、社会とデザインとの関わりを自分なりの視点で捉えられるようになることを目標とする。</p>								
【授業の概要】								
<p>2年次より、視覚伝達(グラフィック、アドバタイジング、イラストレーション)、映像、立体造形の3分野に分かれて、課題制作を進める。それぞれの分野における各種素材の特性を理解しながら、必要な技法を習得し、新たな創造力を育成する。また、マーケティングリサーチを通して、デザインと実社会との基本的な関係性を学んでいく。授業計画1回分を同一週内で実施する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回:【オリエンテーション、基礎課題制作1】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第2回:【基礎課題制作1】プロトタイプ制作から完成へ(540分=6時限)  第3回:【基礎課題制作2】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第4回:【基礎課題制作2】ラフデザイン、リサーチ(540分=6時限)  第5回:【基礎課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ(540分=6時限)  第6回:【基礎課題制作3】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第7回:【基礎課題制作3】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証(540分=6時限)  第8回:【基礎課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ(540分=6時限)  第9回:【基礎課題制作4】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第10回:【基礎課題制作4】ラフデザイン、リサーチ、ディスカッション(540分=6時限)  第11回:【基礎課題制作4】プロトタイプ制作から完成へ、生産現場の視察(540分=6時限)  第12回:【基礎課題制作5】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第13回:【基礎課題制作5】ラフデザイン、リサーチ、プレゼンテーションとディスカッション(540分=6時限)  第14回:【基礎課題制作5】プロトタイプ制作から完成へ(540分=6時限)  第15回:【前期全体講評】プレゼンテーション(540分=6時限)  第16回:【オリエンテーション、応用課題制作1】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第17回:【応用課題制作1】ラフデザイン(540分=6時限)  第18回:【応用課題制作1】プロトタイプ制作から完成へ(540分=6時限)  第19回:【応用課題制作2】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第20回:【応用課題制作2】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証(540分=6時限)  第21回:【応用課題制作2】プロトタイプ制作、ディスカッション(540分=6時限)  第22回:【応用課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ(540分=6時限)  第23回:【応用課題制作3】課題説明、構想と試作(540分=6時限)  第24回:【応用課題制作3】ラフデザイン、リサーチ、ディスカッション(540分=6時限)  第25回:【応用課題制作3】プロトタイプ制作、ディスカッション、フィードバック(540分=6時限)  第26回:【応用課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ(540分=6時限)  第27回:【応用課題制作3】マーケティングリサーチ(540分=6時限)  第28回:【応用課題制作3】リサーチを元にしたブラッシュアップ(540分=6時限)  第29回:【応用課題制作3】プレゼンテーション資料の作成(540分=6時限)  第30回:【後期全体講評】プレゼンテーション(540分=6時限)</p>								
テキスト	使用しない。							
参考書・参考資料等	参照すべき資料を適宜紹介する。							
学生に対する評価	実習への積極的な取り組み(40%)、提出作品(60%)の評価をふまえて総合的に判断する。							
備 考	各領域の現在社会の動向を調査しておく。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	日本画実習2		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	14
科目コード		担当教員名	吉原 慎介、中村 譲		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	日本画実習1		次に履修が望まれる科目		日本画実習3			
【授業の到達目標及びテーマ】								
日本画実習Ⅰで学んだことを踏まえ、さらに日本画材料の特性を理解し、個性に応じたテーマや表現の獲得を目指す。								
【授業の概要】								
前期では風景と人物制作課題とともに古典模写を行い、日本画の知識を深める。後期には人物と自由制作、そしてコンクール形式の自由制作課題を行い、自身の到達度を相対評価する。授業計画1回分を同一週内で実施する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第1回:【古典模写】宋元画の研究(素材、描画法)、下準備(630分=7時限) 第2回:【古典模写】<上げ写し>表現研究、裏打ち、パネル張り込み(630分=7時限) 第3回:【古典模写】<彩色>描画法の研究(630分=7時限) 第4回:【古典模写】<彩色>仕上げ、提出(630分=7時限) 第5回:【人体デッサン】クロッキー(630分=7時限) 第6回:【人体デッサン】観察による表現、提出(630分=7時限) 第7回:【風景制作】取材、スケッチ、小下図、大下図(630分=7時限) 第8回:【風景制作】画材準備、骨描き、下塗り(630分=7時限) 第9回:【風景制作】描き込み(630分=7時限) 第10回:【風景制作】仕上げ、講評(630分=7時限) 第11回:【人体デッサン】クロッキー(630分=7時限) 第12回:【人物制作Ⅰ】デッサン、小下図、大下図(630分=7時限) 第13回:【人物制作Ⅰ】画材準備、骨描き、下塗り(630分=7時限) 第14回:【人物制作Ⅰ】描き込み(630分=7時限) 第15回:【人物制作Ⅰ】描き込み、仕上げ、講評(630分=7時限) 第16回:【人物制作Ⅱ】人物制作Ⅰからの展開 構想、取材、デッサン、小下図等下準備(630分=7時限) 第17回:【人物制作Ⅱ】大下図、地塗り(630分=7時限) 第18回:【人物制作Ⅱ】描き込み、構成や形態の見直し(630分=7時限) 第19回:【人物制作Ⅱ】仕上げ、講評(630分=7時限) 第20回:【人体デッサン】クロッキー(630分=7時限) 第21回:【人体デッサン】観察による素描Ⅰ(630分=7時限) 第22回:【人体デッサン】観察による素描Ⅱ(630分=7時限) 第23回:【人体デッサン】観察による素描Ⅲ、提出(630分=7時限) 第24回:【自由制作Ⅰ】(クラス内コンクール)50号 取材、準備等(630分=7時限) 第25回:【自由制作Ⅰ】<自由表現>序盤(630分=7時限) 第26回:【自由制作Ⅰ】<自由表現>中盤(630分=7時限) 第27回:【自由制作Ⅰ】<自由表現>終盤、仕上げ、順位公表、講評(630分=7時限) 第28回:【自由制作Ⅱ】取材、表現の素材選択、準備等(630分=7時限) 第29回:【自由制作Ⅱ】下塗り、描き込み(630分=7時限) 第30回:【自由制作Ⅱ】仕上げ 2・3年生合同講評会(630分=7時限)								
テキスト	使用しない。							
参考書・参考資料等	画集等の参考資料を必要に応じて提示する。							
学生に対する評価	実習への取り組み姿勢(30%)と、提出作品による理解度・到達度(70%)を総合的に評価する。							
備 考	積極的に取材や作品鑑賞をすること。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	油画実習2		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	14
科目コード		担当教員名	矢野 哲也、小野 環、稲川 豊、橋野 仁史		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	油画実習1		次に履修が望まれる科目			油画実習3 卒業制作		
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>何を表現したいのか自らの特性に合ったテーマを見つける。  進級制作として研究、制作した作品の学内展示を行うとともに講評会において探究した結果を示す。</p>								
【授業の概要】								
<p>近隣のフィールドを活かした風景課題、人体油彩や後期に行う自由制作(進級制作)等を通じ、自己の表現を多角的に模索する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第 1 回 風景オイルスケッチ・・・大学周辺、尾道市立大学美術館周辺 第 2 回 風景オイルスケッチ・・・サテライトスタジオ 第 3 回 風景オイルスケッチ・・・大久野島、福山動物園、糸崎、岩子島 第 4 回 風景オイルスケッチ・・・講評 第 5 回 人体ドローイング 第 6 回 人体油彩「ヌード」・・・ドローイング、構想 第 7 回 人体油彩「ヌード」・・・構図、色彩、表現手法についての考察 第 8 回 人体油彩「ヌード」・・・油彩制作 第 9 回 人体油彩「ヌード」・・・面接 第10回 人体油彩「ヌード」・・・グループディスカッション、講評 第11回 油彩制作「絵画について考える」・・・ガイダンス 第12回 油彩制作「絵画について考える」・・・選択「具象と抽象」 第13回 油彩制作「絵画について考える」・・・油彩制作 第14回 油彩制作「絵画について考える」・・・展開 第15回 油彩制作「絵画について考える」・・・講評 第16回 進級制作・・・自らの興味に沿ったテーマの模索 第17回 進級制作・・・テーマに関連した取材、資料収集 第18回 進級制作・・・ドローイング、実験を重ねる 第19回 進級制作・・・中間プレゼン 制作の進捗状況および作品内容について 第20回 進級制作・・・制作の進捗状況および作品内容の検証 第21回 進級制作・・・検証結果に基づいた取材、資料収集 第22回 進級制作・・・支持体作成 第23回 進級制作・・・支持体の地塗り 第24回 進級制作・・・油彩制作 エスキース 第25回 進級制作・・・油彩制作 構成についての考察 第26回 進級制作・・・油彩制作 色彩についての考察 第27回 進級制作・・・油彩制作 技法、材料についての考察 第28回 進級制作・・・油彩制作 仕上げ 第29回 進級制作・・・講評 第30回 進級制作・・・学内展								
テキスト	特に使用しません。							
参考書・参考資料等	随時、実習課題に関連した資料を紹介する。							
学生に対する評価	「実習の取り組み・意欲」(40%)「提出作品」(60%)により総合的に評価する。							
備 考	課題の目的に沿って研究、制作を行う。課題終了後も造形についてさらに研究を進める。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習、フィールドワーク等を伴う授業				



授業科目名	デザイン実習2		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	14
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、桜田 知文、 世永 逸彦、黒田 教裕、 伊藤 麻子		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…デザイン(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	デザイン実習1		次に履修が望まれる科目		デザイン実習3			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>それぞれの専門分野に対する理解を深め、作品を制作するための応用力を習得する。併せて、地域社会とデザインとの関わりを自分なりの視点で捉え、課題の発見や解決を通して、企画力・表現力・プレゼンテーション能力を習得することを目標とする。</p>								
【授業の概要】								
<p>デザイン実習1を基盤として、前期は地域社会における課題の発見と、デザインによる解決を試みる課題制作を行う。後期は所属研究室ごとの専門的な課題制作を行い、各々が選択した分野の素材特性を生かした表現や技術を習得する。授業計画1回分を同一週内で実施する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第1回:【地域課題】オリエンテーション、リサーチ(630分=7時限) 第2回:【地域課題】ブレインストーミング(630分=7時限) 第3回:【地域課題】テーマの発見(630分=7時限) 第4回:【地域課題】計画の立案、素材の検討(630分=7時限) 第5回:【地域課題】ラフデザイン(1)の制作(630分=7時限) 第6回:【地域課題】ラフデザイン(1)をもとにしたリサーチ(630分=7時限) 第7回:【地域課題】リサーチを反映したラフデザイン(2)の制作(630分=7時限) 第8回:【地域課題】ラフデザインからプロトタイプへ(630分=7時限) 第9回:【地域課題】プロトタイプの検証(630分=7時限) 第10回:【地域課題】仕上げ工程の立案、素材の再検討(630分=7時限) 第11回:【地域課題】仕上げ、ディスカッション(630分=7時限) 第12回:【地域課題】仕上げ、ディスカッションのフィードバック(630分=7時限) 第13回:【地域課題】仕上げ、ブラッシュアップ(630分=7時限) 第14回:【地域課題】プレゼンテーション資料作成(630分=7時限) 第15回:【地域課題】学内プレゼンテーション、講評(630分=7時限) 第16回:【専門領域課題】オリエンテーション、事前リサーチ(630分=7時限) 第17回:【専門領域課題】ブレインストーミング(630分=7時限) 第18回:【専門領域課題】フィールドワーク、リサーチ(630分=7時限) 第19回:【専門領域課題】ディスカッション、計画の立案、素材の検討(630分=7時限) 第20回:【専門領域課題】ラフデザイン(1)の制作(630分=7時限) 第21回:【専門領域課題】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ(630分=7時限) 第22回:【専門領域課題】ラフデザイン(2)の制作(630分=7時限) 第23回:【専門領域課題】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ(630分=7時限) 第24回:【専門領域課題】プロトタイプの検証(630分=7時限) 第25回:【専門領域課題】仕上げ工程の立案、素材の再検討(630分=7時限) 第26回:【専門領域課題】仕上げ、ディスカッション(630分=7時限) 第27回:【専門領域課題】仕上げ、ディスカッションのフィードバック(630分=7時限) 第28回:【専門領域課題】仕上げ、ブラッシュアップ(630分=7時限) 第29回:【専門領域課題】プレゼンテーション資料作成(630分=7時限) 第30回:【専門領域課題】プレゼンテーション、講評(630分=7時限)								
テキスト	使用しない。							
参考書・参考資料等	参照すべき資料を適宜紹介する。							
学生に対する評価	実習への積極的な取り組み(30%)、提出作品(70%)の評価をふまえて総合的に判断する。							
備 考	作品制作は早めに取りかかり、試行錯誤できるタイムスケジュールを組む事。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	日本画実習3		履修年次	4	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	10
科目コード		担当教員名	吉原 慎介、中村 譲		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための必修科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	日本画実習2		次に履修が望まれる科目		卒業制作			
【授業の到達目標及びテーマ】								
日本画実習Ⅰ・Ⅱでの研究成果を基に、個性あるテーマや表現を、卒業制作を視野に入れた大画面で表現できるよう、造形力、構成力、完成度を高めることを目指す。								
【授業の概要】								
前期は人物デッサン、古典模写、人物制作50号、自由制作50～100号で制作し、後期は自画像制作15号と卒業制作のための補助的な研究を行う。授業計画1回分を同一週内で実施する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第1回:【人体デッサン】クロッキー(540分=6時限) 第2回:【人体デッサン】観察による自由表現、提出(720分=8時限) 第3回:【人物制作】スケッチ、小下図、大下図(900分=10時限) 第4回:【人物制作】画材と描画法の研究(540分=6時限) 第5回:【人物制作】技法の研究(720分=8時限) 第6回:【人物制作】表現の研究 講評(900分=10時限) 第7回:【古典模写】下準備(模本、パネル、基底材、絵具)(720分=8時限) 第8回:【古典模写】〈上げ写し〉(720分=8時限) 第9回:【古典模写】〈彩色〉表現研究(720分=8時限) 第10回:【古典模写】〈彩色〉仕上げ、提出、展示(540分=6時限) 第11回:【自由制作】取材、スケッチ、小下図、大下図(900分=10時限) 第12回:【自由制作】制作工程の研究(540分=6時限) 第13回:【自由制作】画材と描画法の研究(720分=8時限) 第14回:【自由制作】技法の研究(720分=8時限) 第15回:【自由制作】仕上げ 講評(900分=10時限) 第16回:【自画像制作】クロッキー、エスキース(180分=2時限) 第17回:【自画像制作】自画像デッサン(270分=3時限) 第18回:【自画像制作】小下図、大下図(270分=3時限) 第19回:【自画像制作】技法研究(180分=2時限) 第20回:【自画像制作】表現研究(180分=2時限) 第21回:【自画像制作】地塗り、下塗り(180分=2時限) 第22回:【自画像制作】大まかな描込み(180分=2時限) 第23回:【自画像制作】細部の描込み(180分=2時限) 第24回:【自画像制作】問題点解決(180分=2時限) 第25回:【自画像制作】仕上げ【卒業制作の補助研究】客観的意見の聴取、課題の洗い出し(270分=3時限) 第26回:【自画像制作】額装【卒業制作の補助研究】課題の克服(90分=1時限) 第27回:【自画像制作】一次提出、講評会【卒業制作の補助研究】一次提出、講評会、課題の整理(180分=2時限) 第28回:【卒業制作の補助研究】撮影(90分=1時限) 第29回:【卒業制作の補助研究】展示計画(270分=3時限) 第30回:【卒業制作の補助研究】後期講評、最終提出(180分=2時限)								
テキスト	使用しない。							
参考書・参考資料等	画集等の参考資料を必要に応じて提示する。							
学生に対する評価	実習への取り組み姿勢(30%)と、提出作品による造形力・表現技術の達成度(70%)を総合的に評価する。							
備 考	積極的に取材や作品鑑賞をすること。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	油画実習3		履修年次	4	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	10
科目コード		担当教員名	矢野 哲也、小野 環、稲川 豊、橋野 仁史		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	油画実習1・2		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
各自の研究内容を検討しつつ、実験を繰り返し、卒業制作につながるテーマの方向性を明確にする。								
【授業の概要】								
卒業制作を充実させるために、自分のテーマに沿った制作、研究を進める。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第 1回 作品制作・・・ガイダンス 第 2回 作品制作・・・自らの興味に沿ったテーマの摸索 第 3回 作品制作・・・研究計画書作成 第 4回 作品制作・・・研究内容の検討 第 5回 作品制作・・・面接 第 6回 作品制作・・・研究計画書の修正、まとめ 第 7回 作品制作・・・テーマに関連した取材 第 8回 作品制作・・・テーマに関連した資料収集 第 9回 作品制作・・・テーマについて多角的に探る 第10回 作品制作・・・多様な素材、手法を試す 第11回 作品制作・・・描画素材、支持体の準備 第12回 作品制作・・・制作 ドローイング 第13回 作品制作・・・制作 イメージの生成 第14回 作品制作・・・制作 イメージの展開 第15回 作品制作・・・制作 作品制作 第16回 作品制作・・・作品制作に関わる記録、まとめ 第17回 作品制作・・・中間プレゼン 制作の進捗状況および作品内容について 第18回 作品制作・・・制作の進捗状況および作品内容の検証 第19回 作品制作・・・検証結果に基づいた研究計画の変更 第20回 作品制作・・・検証結果に基づいた取材、資料収集 第21回 作品制作・・・描画素材、支持体の追加、変更 第22回 作品制作・・・制作 作品内容の変更 第23回 作品制作・・・制作 ドローイング 第24回 作品制作・・・制作 イメージの生成 第25回 作品制作・・・制作 イメージの展開 第26回 作品制作・・・制作 作品制作 第27回 作品制作・・・プレゼン 作品のテーマ、内容について 第28回 作品制作・・・作品のテーマ、内容についての確認と検証 第29回 作品制作・・・作品制作に関わる記録・まとめ 第30回 作品制作・・・実習全体の振り返り								
テキスト	特に使用しない							
参考書・参考資料等	特に使用しない							
学生に対する評価	実習の取り組みおよび提出作品により評価する。							
備 考	課題の目的に沿って研究、制作を行う。課題終了後も各自のテーマについてさらに研究を進める。							
担当教員の 実務経験の有 無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	デザイン実習3		履修年次	4	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	10
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、桜田 知文、 世永 逸彦、黒田 教裕、 伊藤 麻子		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<p>教員の免許状取得のための選択科目  科目区分…教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)  施行規則に定める科目区分又は事項等…デザイン(映像メディア表現を含む)</p>								
この授業の基礎となる科目	デザイン実習2		次に履修が望まれる科目		卒業制作			
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>デザイン実習1・2で習得したことを大きく展開させ、自己の研究テーマを深める。表現力や技術力を高め、より専門的なデザインを行えるようになることを目標とする。</p>								
【授業の概要】								
<p>各自の研究テーマを明確にしつつ、課題制作を行っていく。デザイン実習3では試行的な制作を積極的に行い、自己のデザインの可能性を広げつつ、確かな表現力や技術力を獲得する。授業計画1回分を同一週内で実施する。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回:【専門領域課題】オリエンテーション、事前リサーチ(450分=5時限)  第2回:【専門領域課題】ブレインストーミング(450分=5時限)  第3回:【専門領域課題】フィールドワーク、リサーチ(450分=5時限)  第4回:【専門領域課題】ディスカッション、計画の立案、素材の検討(450分=5時限)  第5回:【専門領域課題】ラフデザイン(1)の制作(450分=5時限)  第6回:【専門領域課題】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ(450分=5時限)  第7回:【専門領域課題】ラフデザイン(2)の制作(450分=5時限)  第8回:【専門領域課題】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ(450分=5時限)  第9回:【専門領域課題】プロトタイプ(1)の制作(450分=5時限)  第10回:【専門領域課題】プロトタイプ(1)のブラッシュアップ(450分=5時限)  第11回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作(450分=5時限)  第12回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作、ディスカッション(450分=5時限)  第13回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作、ディスカッションのフィードバック(450分=5時限)  第14回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の仕上げ、プレゼンテーション資料作成(450分=5時限)  第15回:【専門領域課題】プレゼンテーション、講評(450分=5時限)  第16回:【自主制作】オリエンテーション、課題の整理、テーマの模索(450分=5時限)  第17回:【自主制作】テーマの決定、素材の検討、リサーチ(450分=5時限)  第18回:【自主制作】ラフデザインの制作(450分=5時限)  第19回:【自主制作】ラフデザインの制作、ディスカッション(540分=6時限)  第20回:【自主制作】プロトタイプの制作、ディスカッションのフィードバック(540分=6時限)  第21回:【自主制作】プロトタイプの制作、ブラッシュアップ(540分=6時限)  第22回:【自主制作】仕上げ工程の立案、素材の再検討(540分=6時限)  第23回:【自主制作】仕上げ、ディスカッション(540分=6時限)  第24回:【自主制作】仕上げ、ディスカッションのフィードバック(540分=6時限)  第25回:【自主制作】仕上げ、ブラッシュアップ(540分=6時限)  第26回:【自主制作】プレゼンテーション資料作成(540分=6時限)  第27回:【自主制作】プレゼンテーション、講評(540分=6時限)  第28回:【卒業制作の補助研究】撮影(90分=1時限)  第29回:【卒業制作の補助研究】展示計画(270分=3時限)  第30回:【卒業制作の補助研究】学内展示(180分=2時限)</p>								
テキスト	使用しない。							
参考書・参考資料等	参照すべき資料を適宜紹介する。							
学生に対する評価	実習への積極的な取り組み(20%)、提出作品(80%)の評価をふまえて総合的に判断する。							
備 考	デザイン実習3の制作と平行して卒業制作のプランを練ること。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習				

授業科目名	古美術研究(演習)		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	吉原 慎介、中村 譲		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	日本画実習1、2		次に履修が望まれる科目		日本画実習3			
【授業の到達目標及びテーマ】								
古寺の絵画・仏像(彫刻)等、実地に視察・研究することで日本美術の源流を学ぶ。更に古典技法を探ることで、現在の創作に活かし、基礎的な視野を広げることに資する。								
【授業の概要】								
古美術研究事前講義を受講した後、奈良から京都へと古美術に触れながら研究旅行する。また旅行中に2度の現地講義を受講する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>《期間》 11月上旬～中旬 12泊13日</p> <p>《行き先》 奈良 興福寺、飛鳥周辺(高松塚古墳、キトラ古墳、石舞台、飛鳥寺、橘寺、岡寺)、秋篠寺、薬師寺、当麻寺、室生寺、聖林寺、安倍文殊院、法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺、東大寺(大仏殿、戒壇院、俊乗堂、法華堂、東大寺ミュージアム)、正倉院、新薬師寺、唐招提寺、薬師寺、安産寺、信貴山朝護孫子寺、奈良国立博物館</p> <p>京都 南禅寺(金地院、大方丈)、養源院、三十三間堂、智積院、大徳寺(孤蓬庵、真珠庵、大方丈)、相国寺(承天閣美術館)、妙心寺(隣華院)、広隆寺、教王護国寺、平等院、(株)ナカガワ胡粉絵具、醍醐寺、法界寺、京都国立博物館</p> <p>※拝観先の都合により変更になる場合あり。</p> <p>《事前講義》 7月中 2コマ 非常勤講師 鈴木 喜博</p>								
テキスト	古美術研究演習の手引きを作成し、持参する。							
参考書・参考資料等								
学生に対する評価	古美術研究事前学内講義、現地講義の出席率を重視し、研究旅行への取り組み姿勢を評価の基準とする。							
備 考	事前に拝観先、自由研究日の見学先などの情報収集を行なっておくこと。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業					

授業科目名	古美術研究(演習)		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	矢野 哲也、橋野 仁史、 小野 環、稲川 豊		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	美学 西洋美術史1・2 テンペラ画技法演習 壁画技法演習		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
古美術研究演習を通して作品に直に触れ、西洋美術に対する理解を深める。 さらに、関心を持った美術作品、作家などの研究を進めて制作に活かす。								
【授業の概要】								
イタリア、フランスの各都市を巡り、美術館、博物館、教会の美術作品を中心に実地視察、研究を行う。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回事前ガイダンス</p> <p>第 2回実地視察(ローマ)・・・国立近代美術館、</p> <p>第 3回実地視察(ローマ)・・・ヴァチカン美術館、システリーナ礼拝堂、サン・ピエトロ寺院</p> <p>第 4回実地視察(フィレンツェ)・・・リッカルディ宮、メディチ家礼拝堂、サンタクローチェ教会</p> <p>第 5回実地視察(フィレンツェ)・・・ウフィツィ美術館、ストロツィ宮</p> <p>第 6回実地視察(フィレンツェ)・・・アカデミア美術館、サン・マルコ教会</p> <p>第 7回実地視察(フィレンツェ)・・・マリノマリーニ美術館、ラ・スコーペラ博物館</p> <p>第 8回実地視察(パリ)・・・ルーブル美術館、オランジュリー美術館</p> <p>第 9回実地視察(パリ)・・・オルセー美術館、ロダン美術館、マイヨール美術館</p> <p>第10回実地視察(パリ)・・・マルモタン美術館、パリ市立美術館</p> <p>第11回実地視察(パリ)・・・ポンピドゥセンター、ピカソ美術館</p> <p>第12回実地視察(パリ)・・・ギメ美術館、グラン・パレ、モロー美術館</p> <p>第13回実地視察(パリ)・・・自然史博物館、ケ・ブランリー博物館</p> <p>第14回実地視察(パリ)・・・ルイ・ヴィトン美術館、ギャラリー</p> <p>第15回レポート作成</p>								
テキスト	特に使用しない							
参考書・参考資料等	特に使用しない							
学生に対する評価	古美術研究(演習)の取り組み姿勢と提出されたレポートを評価する。							
備 考	視察先の情報収集を行う。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習、フィールドワーク等を伴う授業					

授業科目名	古美術研究(演習)		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、桜田 知文、 世永 逸彦、黒田 教裕、 伊藤 麻子	担当形態	複数			
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	デザイン実習1・2		次に履修が望まれる科目		デザイン実習3			
【授業の到達目標及びテーマ】								
古代からの日本の歴史の中にあるデザインと美の関わりを学び、デザインクリエイティブに対する理解を深める								
【授業の概要】								
大阪・京都・奈良などを巡り、歴史の中で培われたデザインを学ぶことで、自身の作品制作のための見識と知識の幅を広げる。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:事前学習1 仏像彫刻</p> <p>第3回:事前学習2 絵巻物・障壁画</p> <p>第4回:現地演習1 国立民族学博物館</p> <p>第5回:現地演習2 京都国立博物館</p> <p>第6回:現地演習3 興福寺、新薬師寺、長谷寺</p> <p>第7回:現地演習4 飛鳥散策</p> <p>第8回:現地演習5 東大寺大仏殿</p> <p>第9回:現地演習6 法隆寺</p> <p>第10回:現地演習7 モリサワ スクエア</p> <p>第11回:現地演習8 角屋もてなしの文化美術館</p> <p>第12回:課題制作1 現地調査</p> <p>第13回:課題制作2 資料整理</p> <p>第14回:課題制作3 本制作</p> <p>第15回:課題制作4 仕上げ、提出</p>								
テキスト	古美術研究のしおり、配布プリントなど							
参考書・参考資料等	適宜紹介する							
学生に対する評価	事前学習や現地演習での出席状況・参加姿勢・研究資料の提出をふまえて総合的に判断する。							
備 考	事前に特別拝観先、自主研究日の見学先などの情報収集を行ない、必要に応じて見学先の予約等を行なっておくこと。							
担当教員の 実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業				

授業科目名	古美術研究(演習)		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	吉原 慎介、中村 譲		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	日本画実習1、2		次に履修が望まれる科目		日本画実習3			
【授業の到達目標及びテーマ】								
古寺の絵画・仏像(彫刻)等、実地に視察・研究することで日本美術の源流を学ぶ。更に古典技法を探ることで、現在の創作に活かし、基礎的な視野を広げることに資する。								
【授業の概要】								
古美術研究事前講義を受講した後、奈良から京都へと古美術に触れながら研究旅行する。また旅行中に2度の現地講義を受講する。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>《期間》 11月上旬～中旬 12泊13日</p> <p>《行き先》 奈良 興福寺、飛鳥周辺(高松塚古墳、キトラ古墳、石舞台、飛鳥寺、橘寺、岡寺)、秋篠寺、薬師寺、当麻寺、室生寺、聖林寺、安倍文殊院、法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺、東大寺(大仏殿、戒壇院、俊乗堂、法華堂、東大寺ミュージアム)、正倉院、新薬師寺、唐招提寺、薬師寺、安産寺、信貴山朝護孫子寺、奈良国立博物館</p> <p>京都 南禅寺(金地院、大方丈)、養源院、三十三間堂、智積院、大徳寺(孤蓬庵、真珠庵、大方丈)、相国寺(承天閣美術館)、妙心寺(隣華院)、広隆寺、教王護国寺、平等院、(株)ナカガワ胡粉絵具、醍醐寺、法界寺、京都国立博物館</p> <p>※拝観先の都合により変更になる場合あり。</p> <p>《事前講義》 7月中 2コマ 非常勤講師 鈴木 喜博</p>								
テキスト	古美術研究演習の手引きを作成し、持参する。							
参考書・参考資料等								
学生に対する評価	古美術研究事前学内講義、現地講義の出席率を重視し、研究旅行への取り組み姿勢を評価の基準とする。							
備 考	事前に拝観先、自由研究日の見学先などの情報収集を行なっておくこと。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業					



授業科目名	古美術研究(演習)		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	矢野 哲也、橋野 仁史、 小野 環、稲川 豊		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>								
この授業の基礎となる科目	美学 西洋美術史1・2 テンペラ画技法演習 壁画技法演習		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
<p>古美術研究演習を通して作品に直に触れ、西洋美術に対する理解を深める。 さらに、関心を持った美術作品、作家などの研究を進めて制作に活かす。</p>								
【授業の概要】								
<p>イタリア、フランスの各都市を巡り、美術館、博物館、教会の美術作品を中心に実地視察、研究を行う。</p>								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第 1回事前ガイダンス  第 2回実地視察(ローマ)・・・国立近代美術館、  第 3回実地視察(ローマ)・・・ヴァチカン美術館、システリーナ礼拝堂、サン・ピエトロ寺院  第 4回実地視察(フィレンツェ)・・・リッカルディ宮、メディチ家礼拝堂、サンタクローチェ教会  第 5回実地視察(フィレンツェ)・・・ウフィツィ美術館、ストロツツィ宮  第 6回実地視察(フィレンツェ)・・・アカデミア美術館、サン・マルコ教会  第 7回実地視察(フィレンツェ)・・・マリノマリーニ美術館、ラ・スコーペラ博物館  第 8回実地視察(パリ)・・・ルーブル美術館、オランジュリー美術館  第 9回実地視察(パリ)・・・オルセー美術館、ロダン美術館、マイヨール美術館  第10回実地視察(パリ)・・・マルモタン美術館、パリ市立美術館  第11回実地視察(パリ)・・・ポンピドゥセンター、ピカソ美術館  第12回実地視察(パリ)・・・ギメ美術館、グラン・パレ、モロー美術館  第13回実地視察(パリ)・・・自然史博物館、ケ・ブランリー博物館  第14回実地視察(パリ)・・・レイ・ヴィトン美術館、ギャラリー  第15回レポート作成</p>								
テキスト	特に使用しない							
参考書・参考資料等	特に使用しない							
学生に対する評価	古美術研究(演習)の取り組み姿勢と提出されたレポートを評価する。							
備 考	視察先の情報収集を行う。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習、フィールドワーク等を伴う授業					

授業科目名	古美術研究(演習)		履修年次	3	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	4
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、桜田 知文、 世永 逸彦、黒田 教裕、 伊藤 麻子	担当形態	複数			
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	デザイン実習1・2		次に履修が望まれる科目		デザイン実習3			
【授業の到達目標及びテーマ】								
古代からの日本の歴史の中にあるデザインと美の関わりを学び、デザインクリエイティブに対する理解を深める								
【授業の概要】								
大阪・京都・奈良などを巡り、歴史の中で培われたデザインを学ぶことで、自身の作品制作のための見識と知識の幅を広げる。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:事前学習1 仏像彫刻</p> <p>第3回:事前学習2 絵巻物・障壁画</p> <p>第4回:現地演習1 国立民族学博物館</p> <p>第5回:現地演習2 京都国立博物館</p> <p>第6回:現地演習3 興福寺、新薬師寺、長谷寺</p> <p>第7回:現地演習4 飛鳥散策</p> <p>第8回:現地演習5 東大寺大仏殿</p> <p>第9回:現地演習6 法隆寺</p> <p>第10回:現地演習7 モリサワ スクエア</p> <p>第11回:現地演習8 角屋もてなしの文化美術館</p> <p>第12回:課題制作1 現地調査</p> <p>第13回:課題制作2 資料整理</p> <p>第14回:課題制作3 本制作</p> <p>第15回:課題制作4 仕上げ、提出</p>								
テキスト	古美術研究のしおり、配布プリントなど							
参考書・参考資料等	適宜紹介する							
学生に対する評価	事前学習や現地演習での出席状況・参加姿勢・研究資料の提出をふまえて総合的に判断する。							
備 考	事前に特別拝観先、自主研究日の見学先などの情報収集を行ない、必要に応じて見学先の予約等を行なっておくこと。							
担当教員の 実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容		創作活動、制作活動を行っている芸術家によるフィールドワーク等を伴う授業				

授業科目名	卒業制作		履修年次	4	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	10
科目コード		担当教員名	矢野 哲也、小野 環、稲川 豊、橋野 仁史		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	油画実習1・2		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
作品を卒業認定において示し、卒業制作展として4年間の成果を社会に向けて発表する。								
【授業の概要】								
油画実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して身につけた造形力をいかして、各自の研究テーマを掘り下げて卒業制作に取り組む。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第 1回 卒業制作・ガイダンス 第 2回 卒業制作・自らの興味に沿ったテーマの摸索 第 3回 卒業制作・研究内容の検討 第 4回 卒業制作・研究計画書作成 第 5回 卒業制作・面談 第 6回 卒業制作・研究計画書の修正、まとめ 第 7回 卒業制作・テーマに関連した取材 第 8回 卒業制作・テーマに関連した資料収集 第 9回 卒業制作・ドローイング 第10回 卒業制作・素材の選択 第11回 卒業制作・素材の準備 第12回 卒業制作・制作開始 第13回 卒業制作・制作 イメージの側面から考える 第14回 卒業制作・制作 素材の側面から考える 第15回 卒業制作・制作 行為の側面から考える 第16回 卒業制作・作品制作に関わる記録、振り返り 第17回 卒業制作・中間プレゼン 制作の進捗状況および作品内容について 第18回 卒業制作・制作の進捗状況および作品内容の検証 第19回 卒業制作・検証結果に基づいた取材、資料収集 第20回 卒業制作・制作 複数作品の制作 第21回 卒業制作・制作 イメージの側面からの再検討 第22回 卒業制作・制作 素材の側面からの再検討 第23回 卒業制作・制作 行為の側面からの再検討 第24回 卒業制作・面談・意見交換 第25回 卒業制作・制作 作品の発展 第26回 卒業制作・制作 作品の見極め 第27回 卒業制作・プレゼン 卒業制作展に向けて 第28回 卒業制作・ポートフォリオ作成 撮影、編集 第29回 卒業制作・ポートフォリオ作成 まとめ 第30回 卒業制作・卒業制作展準備								
テキスト	特に使用しない							
参考書・参考資料等	特に使用しない							
学生に対する評価	実習の取り組みおよび提出作品により評価する。							
備 考								
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習、フィールドワーク等を伴う授業					

授業科目名	卒業制作		履修年次	4	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	10
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、桜田 知文、 世永 逸彦、黒田 教裕、 伊藤 麻子		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	デザイン実習3		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
作品を卒業制作展において示し、4年間の成果を社会に向けて発表する。								
【授業の概要】								
デザイン実習1・2・3で学んできたことを踏まえ、各自の研究テーマを掘り下げて卒業制作に取り組む。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第1回:【卒業制作】オリエンテーション、事前リサーチ 第2回:【卒業制作】ブレインストーミング 第3回:【卒業制作】フィールドワーク、リサーチ 第4回:【卒業制作】ディスカッション、計画の立案、素材の検討 第5回:【卒業制作】テーマの決定 第6回:【卒業制作】ラフデザイン(1)の制作 第7回:【卒業制作】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ 第8回:【卒業制作】ラフデザイン(2)の制作 第9回:【卒業制作】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ 第10回:【卒業制作】プロトタイプ(1)の制作 第11回:【卒業制作】プロトタイプ(1)のブラッシュアップ 第12回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作 第13回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、ディスカッション 第14回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、ディスカッションのフィードバック 第15回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の仕上げ、中間プレゼンテーション資料作成 第16回:【卒業制作】中間プレゼンテーション、中間チェック 第17回:【卒業制作】中間チェックを踏まえたディスカッション 第18回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作 第19回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作、ディスカッション 第20回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、ディスカッションのフィードバック 第21回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、ブラッシュアップ 第22回:【卒業制作】仕上げ工程の立案、素材の再検討 第23回:【卒業制作】仕上げ、ディスカッション 第24回:【卒業制作】仕上げ、ディスカッションのフィードバック 第25回:【卒業制作】仕上げ、ブラッシュアップ 第26回:【卒業制作】最終プレゼンテーション資料作成 第27回:【卒業制作】最終プレゼンテーション、講評 第28回:【卒業制作】講評、採点 第29回:【卒業制作】講評を踏まえたブラッシュアップ 第30回:【卒業制作】学内展示、審査								
テキスト								
参考書・参考資料等	適宜紹介する							
学生に対する評価	作品の評価、制作姿勢・制作過程をふまえて総合的に判断する。							
備 考	4年生までに、本学および他の美術系大学の卒業制作も観て研究しておくこと。							
担当教員の 実務経験の有 無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	卒業制作		履修年次	4	開講年度学期	2020年度 前期～後期	単位数	10
科目コード		担当教員名	野崎 真澄、桜田 知文、 世永 逸彦、黒田 教裕、 伊藤 麻子		担当形態	複数		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	デザイン実習3		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
作品を卒業制作展において示し、4年間の成果を社会に向けて発表する。								
【授業の概要】								
デザイン実習1・2・3で学んできたことを踏まえ、各自の研究テーマを掘り下げて卒業制作に取り組む。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
第1回:【卒業制作】オリエンテーション、事前リサーチ 第2回:【卒業制作】ブレインストーミング 第3回:【卒業制作】フィールドワーク、リサーチ 第4回:【卒業制作】ディスカッション、計画の立案、素材の検討 第5回:【卒業制作】テーマの決定 第6回:【卒業制作】ラフデザイン(1)の制作 第7回:【卒業制作】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ 第8回:【卒業制作】ラフデザイン(2)の制作 第9回:【卒業制作】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ 第10回:【卒業制作】プロトタイプ(1)の制作 第11回:【卒業制作】プロトタイプ(1)のブラッシュアップ 第12回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作 第13回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、ディスカッション 第14回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、ディスカッションのフィードバック 第15回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の仕上げ、中間プレゼンテーション資料作成 第16回:【卒業制作】中間プレゼンテーション、中間チェック 第17回:【卒業制作】中間チェックを踏まえたディスカッション 第18回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作 第19回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作、ディスカッション 第20回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、ディスカッションのフィードバック 第21回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、ブラッシュアップ 第22回:【卒業制作】仕上げ工程の立案、素材の再検討 第23回:【卒業制作】仕上げ、ディスカッション 第24回:【卒業制作】仕上げ、ディスカッションのフィードバック 第25回:【卒業制作】仕上げ、ブラッシュアップ 第26回:【卒業制作】最終プレゼンテーション資料作成 第27回:【卒業制作】最終プレゼンテーション、講評 第28回:【卒業制作】講評、採点 第29回:【卒業制作】講評を踏まえたブラッシュアップ 第30回:【卒業制作】学内展示、審査								
テキスト								
参考書・参考資料等	適宜紹介する							
学生に対する評価	作品の評価、制作姿勢・制作過程をふまえて総合的に判断する。							
備 考	4年生までに、本学および他の美術系大学の卒業制作も観て研究しておくこと。							
担当教員の業務経験の有無	○	業務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による実習					

授業科目名	文化財保存学概論		履修年次	1	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	山田 祐子		担当形態	単独		
【科目の位置付け】								
この授業の基礎となる科目	理科系授業(受講経験が無くても良い)		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】								
日本の文化財およびその背景にある日本文化について学ぶ。さまざまな環境におかれた文化財の劣化や、それに対する対策について学び、文化財の保存・修復についての基礎的理念を身につける。								
【授業の概要】								
日本では従来どのようなものが文化財として扱われてきたのか、文化財保護法に基づいた基礎的な歴史、流れについて示す。また、文化財を劣化させるさまざまな環境について具体例を交えて紹介し、文化財を保存する上で必要な保存環境に関する考え方を説明する。さらに、日本の文化財の形態や構造を知り、作品修復に使用される材料や道具に触れることで材料への理解を深め、修復の重要性について体験してもらう。博物館相当施設への見学では、実際の保存現場で展示と保存をどのように実現しているのかを学び、文化財の保存と活用について学ぶ。								
【授業計画】								
講 義 内 容								
<p>第1回: 文化財保護法、歴史、文化財の種別について</p> <p>第2回: 保存環境(文化財の劣化要因-温度、湿度、光—)</p> <p>第3回: 保存環境(文化財の劣化要因-大気汚染、生物、その他—)</p> <p>第4回: 予防的保存対策の事例</p> <p>第5回: 装こう文化財の形態、構造</p> <p>第6回: 作品調査について、作品の取り扱い実習</p> <p>第7回: 博物館相当施設バックヤード見学</p> <p>第8回: 展示鑑賞、施設見学</p> <p>第9回: 装こう文化財の修復に使用される材料</p> <p>第10回: 修復事例紹介</p> <p>第11回: 国際協力事例、被災文化財修復事例紹介</p> <p>第12回: 材料調整実習(糊炊き、フノリ炊き)</p> <p>第13回: 実習(補修)</p> <p>第14回: 実習(裏打ち)</p> <p>第15回: 実習(裏打ち)</p>								
テキスト	教科書は使用せず、必要に応じてプリント配布							
参考書・参考資料等								
学生に対する評価	授業・実習への参加態度、課題レポート							
備 考	その日の講義の復習を行い、翌日質問や意見、感想を述べて欲しい。							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	文化財の保存、修復に携わっている教員による授業					

授業科目名	情報機能論	履修年次	2	開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
科目コード		担当教員名	野崎 真澄	担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目	デザイン論	次に履修が望まれる科目	デザイン実習1				
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>様々な分野で活躍するクリエイターとの対話の中から自らの課題及び将来への道筋を見出すことができるようにする。</p>							
【授業の概要】							
<p>デザイン実務の現場から最前線の風を吹き込み、学生の職業観醸成を図るとともに、自らの課題を見出させる。授業は企業等の実務家達によるオムニバス形式。</p> <p><b>【オムニバス担当教員】</b> 今氏亮二、加藤芳夫、佐古百美、玉木明、野田尚之、三澤遥、弥中敏和</p> <p>(今氏): 広義に捉えた「編集」と、そこから生まれるデザインの可能性を考察する  (加藤): 会社の表現(商品ブランド/パッケージデザイン)と個人の表現(アートワーク)複線のクリエイティブな生き方について考える  (佐古): イラストレーションの担う役割について、主に絵本を中心に考える  (玉木): デザインにおける重要な能力は、実践力とともに実践する以前の読解力である  本講では、デザインを「いかに読み」、「いかに実践する」かを考察する  (野田): 色々な広告表現について考察する・最新の映像世界を体感する  (三澤): デザインを仕事にする  (弥中): ヒトにとって「情報とは」「機能とは」なにかを考え、デザインを行うための思考的基盤づくりとする</p>							
【授業計画】							
<p style="text-align: center;">講 義 内 容</p> <p>第 1回 (野崎): オリエンテーション、オムニバス各教員の紹介。「視覚情報の伝達とその効果」-色の知覚から錯視まで-</p> <p>第 2回 (今氏): カタチを作るための編集工学入門</p> <p>第 3回 (今氏): 編集から生まれるデザインの可能性</p> <p>第 4回 (加藤): 記憶の中のカタチを取り出すワークショップ。パッケージデザインとブランドについて考える</p> <p>第 5回 (加藤): 人が生きる中でクリエイティブとは何かを考える。仕事と表現者の複線の生き方を紹介する</p> <p>第 6回 (佐古): イラストレーションの仕事の多様性と仕事の進め方について</p> <p>第 7回 (佐古): 出版(主に児童書、絵本)の現状と未来、絵本の本質について考える</p> <p>第 8回 (玉木): デザインの読み方</p> <p>第 9回 (玉木): デザインの描き方</p> <p>第10回 (野田): 自らが仕事で制作した広告写真や商業映像を見せながら、実際の広告の世界を体感する</p> <p>第11回 (野田): 作家として制作した写真や映像、Webコンテンツを見せながら、最新の映像世界やその展開方法について考える</p> <p>第12回 (三澤): 「問い」と「答え」</p> <p>第13回 (三澤): 「発想」と「定着」</p> <p>第14回 (弥中): ヒトが情報や機能を求める背景</p> <p>第15回 (弥中): デザインがなすべきこと</p> <p>※五十音順に記載。実際の開講順とは異なります。</p> <p>オムニバスの責任者名: 野崎 真澄</p>							
テキスト	とくに使用しない						

参考書・参考資料等	とくに使用しない		
学生に対する評価	出席数・授業の参加状況・毎回の出席表の記述内容・及びレポート提出により評価する。		
備 考	各先生の一回目の授業の前にはその先生のしごとについて調べておくこと。		
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業



授業科目名	タイポグラフィ	履修年次	2	開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
科目コード		担当教員名	世永 逸彦	担当形態	オムニバス		
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目					
【授業の到達目標及びテーマ】							
<p>様々な文字の背景や形態、表現上の機能を理解する。  書体の形状やそれを使った組版の機能的性への理解(可読性・視認性含む)とそれらの特性や美しさへの理解。</p>							
【授業の概要】							
<p>文字の歴史や、現代にいたる事例を研究し、文字の形状、エレメント特性、文字への理解を深める。  また、編集・デザインワークにおける文字のあり方や有効な利用法を、講義の中で学ぶ。  美術学科・日本文学科によるオムニバス授業。  一線で活躍中のブックデザイナーをゲストスピーカーとして招き、また、  フォントメーカー モリサワ、フォントワークス文字デザイナー藤田重信先生の講義を含む。</p>							
【授業計画】							
講 義 内 容							
<p>第1回 オリエンテーション(授業概要について)  第2回 小畑:文章表現のルール1(言葉づかいのいろいろ)  第3回 小畑:文章表現のルール2(文章の組み立て)  第4回 小畑:文章表現のルール3(禁則処理・約物の使い方)  第5回 小畑:取材・調査と記事1(取材・調査の手順)  第6回 小畑:取材・調査と記事2(編集と注釈)  第7回 小畑:取材・調査と記事3(見出しと物語性)  第8回 小畑:校正の重要性  第9回 世永:誌面デザインと文字  第10回 野崎:タイポグラフィとイラストレーション  第11回 黒田:映像におけるタイポグラフィ  第12回 藤田(フォントワークス):文字のデザイン(筑紫フォントについて)  第13回 モリサワ:文字セミナー  第14回 大悟法:書籍・雑誌に見るデザインの流行  第15回 大悟法:書籍・雑誌・TV番組内で見かけるフォント</p>							
テキスト	配布資料						
参考書・参考資料等	特になし						
学生に対する評価	授業への取組み意欲・態度50%+レポート50%(実習を含めた提出物:レポートによる)						
備 考	各回に示される専門用語等を覚えることが、次回以降の授業理解に必須。授業日時に変更が出る場合あり。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容	創作活動、制作活動を行っている芸術家による授業				